

2022年度  
日本女子大学  
社会連携教育センター  
活動報告書



# 2022年度社会連携教育センター活動報告書 目次

## ○2022年度の社会連携教育センターの活動を振り返って

社会連携教育センター 所長 家政学部被服学科教授 横井 孝志 …………… 1

## ○2022年度の社会連携教育委員会を振り返って

社会連携教育委員会 委員長 理学部化学生命科学科教授 今城 尚志 …………… 2

## ○正課外学修の推進

▼正課外学修・イベントについて …………… 4

▽正課外学修・イベント一覧 …………… 5

▽正課外学修・イベントアンケート …………… 6

▼社会連携活動支援助成について

自主活動推進プロジェクトチーム 家政学部住居学科教授 葉袋 奈美子 …………… 23

▽社会連携活動支援助成スケジュールおよび採択テーマ一覧 …………… 24

▽社会連携活動支援 活動報告

日高町の子どもたちの運動習慣や生活習慣を改善・向上するための幼稚園・

保育所における運動支援活動

申請No.02 家政学部児童学科3年（4名）運動促し隊 …………… 25

日高町における「はやね・はやおき・あさごはん」運動の推進に関わる幼児の

生活習慣形成の支援活動

申請No.03 家政学部児童学科3年（4名）子どもを健康にしたい会 …………… 26

さくださんと行く！作田家とアイヌの暮らし

（日高地区で小学生向けのワークショップの取り組み）

申請No.05 家政学部住居学科4年（6名）JWU住まい活動隊 …………… 27

▼JWUチームボランティアについて …………… 29

## ○地域連携報告

▼心理相談室活動報告

心理相談室運営プロジェクトチーム 人間社会学部心理学科准教授 堀江 桂吾 …………… 30

▼文京区妊産婦・乳児救護所について

連携推進プロジェクトチーム 家政学部住居学科教授 平田 京子 …………… 31

▼文京区健康・体力増進事業について

家政学部児童学科准教授 杉山 哲司 澤田 美砂子 …………… 33

▽文京区連携活動報告 …………… 34

▼川崎市多摩区の大学・地域連携事業を通じた学生と地方都市のつながり	
連携推進プロジェクトチーム 家政学部住居学科教授 葉袋 奈美子	36
▽川崎市多摩区連携活動報告	37
▼板橋区立中央図書館との連携事業「親子読み聞かせ講座」	
家政学部児童学科准教授 今田 由香	39
▼板橋区立中央図書館との連携事業「みんなで歌おう！わらべ歌」	
家政学部児童学科教授 根津 知佳子	40
▼北海道日高管内7町・日高振興局・日高町村会との包括連携について	41
▽JWU社会連携科目での北海道日高管内7町・日高振興局・日高町村会との連携	
連携推進プロジェクトチーム 人間社会学部文化学科教授 中西 裕二	43
▽学生が主体となった北海道浦河町との地域連携の取り組み	
家政学部食物学科教授 藤井 恵子	44
▽被服学科科目「民族服飾論」平取町連携オンライン授業	
家政学部被服学科教授 森 理恵	46
▼北区との連携事業「学習支援教室講師派遣/心理ケア訪問相談会」活動報告	
人間社会学部心理学科准教授 堀江 桂吾	47
<b>○産官学連携報告</b>	
▼AI、データサイエンス、ICTに関する社会連携活動（2022年度）	
連携推進プロジェクトチーム 理学部数物情報科学科教授 長谷川 治久	48
▼日本総合住生活株式会社との産学連携について	
連携推進プロジェクトチーム 家政学部住居学科教授 定行 まり子	
家政学部住居学科学術研究員 古賀 繭子	49
▼株式会社読売広告社との産学連携について	
連携推進プロジェクトチーム 人間社会学部文化学科教授 中西 裕二	51
▼ミツカンパートナーズとの産学連携について	
家政学部食物学科教授 飯田 文子	52
<b>○JWU子育てサイエンス・ラボ／子育てサイエンス・カフェ</b>	
▼JWU子育てサイエンス・ラボ活動報告	
子育てプロジェクトチーム 人間社会学部心理学科准教授 麦谷 綾子	53
▽子育てサイエンス・カフェ アンケート	54
<b>○SDGs特設サイト</b>	
▼SDGs特設サイトについて SDGsプロジェクトチーム	69

# 2022年度の社会連携教育センターの活動を振り返って

社会連携教育センター所長 横井孝志  
(家政学部被服学科 教授)

社会連携教育センター活動報告書第3号をお届けします。

2020年4月に社会連携教育センターが発足してから3年が経過しました。この間、様々な方々にセンターの活動をご支援頂いたことに対して、心より御礼申し上げます。

すでにご承知のように、本学の社会連携教育センターは、日本女子大学と地域社会とを繋いで、本学の研究・教育資源を活用した地域社会における課題の解決や、地域社会における実践的現場を活用した社会連携教育の実現を支援する組織です。現在進めているセンターの活動には社会連携活動支援助成事業などの正課外学修活動、文京区、川崎市、板橋区、北海道日高管内との地域連携活動、日本総合住生活株式会社、株式会社読売広告社やミツカンパートナーズとの産学連携活動、本学の研究と地域の子育てとを繋ぐJWU子育てサイエンス・ラボの活動、本学のSDGs活動を紹介するSDGs特設サイトの設置などが含まれます。センター発足3年目にはそれぞれの活動がさらに深化、本格化しました。また、正課としてのJWU社会連携科目の中の社会連携・社会貢献活動Ⅰ・Ⅱも本格的に開講されました。

今年度も、様々な地域、団体や企業の方々をはじめとする多くの方々のご支援ご協力により、無事に活動を推進し、よい成果を上げることができました。是非この報告書をご一読頂き、皆様方のご意見をお寄せ頂くとともに、今後の皆様方の社会連携の参考にして頂けると大変ありがたく思います。

# 2022年度の社会連携教育委員会を振り返って

社会連携教育委員会委員長 今 城 尚 志  
(理学部化学生命科学科 教授)

2022年度は社会連携教育委員会が開設されて3年目であるが、主に以下の3項目について議論・調整を行った。いずれも重要な事項であり、それぞれに少なからず労力を要したといえる。

## 1 国際協力・ボランティア論

この科目は半期科目であり、講義科目である。委員会ではすでに運用している科目群を俯瞰的に講義科目・演習科目の割合の観点から議論し、基礎的な講義科目が演習科目に比べて少ない、との結論を得た。「国際協力・ボランティア論」は学生にとり興味深い内容となっているようであるが、JWU社会連携科目全体として国際的な部分に偏っているとの判断から、この科目を閉講とし、新たに基礎的な講義科目を新設することを委員会として決定した。

新設科目として「企業と社会連携」、「ボランティア論」の2科目とすることが委員会に提案され、その方針が決まった。

家政経済学科と社会福祉学科に協力を要請し、以下の非常勤講師を選任することになった。

家政経済学科 「企業と社会連携」 田村 太郎 (たむらたろう) 氏

社会福祉学科 「ボランティア概論」 久米 隼 (くめはやと) 氏

## 2 社会連携・社会貢献活動 I・II

この科目は社会連携教育委員会開設当初から準備を重ねてきたものであり、北区社会福祉協議会の協力を得て、準備万端とはいかない状況ながらスタートを切ることができた。結果的に2名が活動時間数を満たし、単位取得が確定することになった。

事前指導・事後指導は 日本財団ボランティアセンター 宮越義仁 (みやこしよしひと) 氏をゲストスピーカーとして招聘し講演・パネルディスカッションに協力して頂けた。後期の事前指導でも受講希望の学生があり、人数が少ないながらも学外ボランティア実習による正課授業をスタートできたことは良しとすべきであろう。

今後は受講学生のケア、受け入れ団体との連携、受講者数を増やすための学内広報、などの課題を少しずつ進めていかなければならない。

## 3 地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習D

文学部提供科目として本年度に開講したが、英語を使うことが影響したためか、当初の履修登録数が5名以下閉講要件に該当することになった。委員会としては、後期授業開始前に広報資料を作成し、学生へのアピールを試みたが、履修者増には結び付かなかった。授業担当者と複数回の協議の結果、2023年度に向け、授業内容を見直し、「やさしい日本語」を切り口とした授業を計画し、担当可能な非常勤講師の選任について日本文学科に協力を求めた。日本文学科学科長への情報共有が十分でなかったなど、小さい問題はあったが、概ね協力的に非常勤講師選任を行うことができ、柳田直美 (やなぎだなおみ) 氏を非常勤講師として選任することができた。

窓口学科としては、前担当者の所属学科としての後任人事ということで英文学科となった。これにより、窓口学科と非常勤講師推薦に協力を頂いた学科が異なる状況になった。上記3項目の他に「社会連

携を学ぶA」の窓口学科を探さないといけない状況であったが、児童学科に引き続き依頼して2023年度まで担当して頂くことになり、窓口学科の変更については、2024年度に先送りとなった。

全学的に提供する科目を提供する上で、全学部・全学科からの協力が得られることが望ましいことには疑問の余地がないが、実際に非常勤講師の推薦と担当（窓口）学科の選定については、当該学科と委員会間で情報共有と合意形成が必要であることについて、認識を新たに行っているところである。担当（窓口）学科の選定についての種々の問題の解決には委員会の職掌を越えるところが必要となるかもしれないが、より良い社会連携科目を提供するために知恵をしまり、調整作業を継続していくことが必要であろう。

# 正課外学修の推進

## 正課外学修・イベントについて

学生の社会貢献活動への意識醸成、理解促進を目指した講座を開催した。前年度に引き続き、ダイバーシティ推進室との共催で「ノートテイクナー養成講座」を3回開催し、新規ノートテイクナーの獲得、既存ノートテイクナーのスキルアップを目指した。

また、学外講師を招いた学生向けの講座を3回開催した。

前年度に引き続き地域交流イベントとして地域の子どもたちと保護者の方を対象としたクリスマスイベントを、社会福祉学科との共催で開催した。コロナ禍のため、イベントの機会が減った多数の地域の子どもたちやそのご家族の参加があり、普段子どもと接する機会のない学生にとってよい学びの場となった。前年度と異なり、すべての講座を対面で開催することができ、より充実した機会を設けることができた。

一方、近隣自治体や社会福祉協議会の要請による対面のボランティア活動が少しずつ増加しており、2022年度は34名が参加した。今後このような機会が増加することに伴い、ボランティア情報の提供方法やフォローアップ体制の整備を進めていきたい。

## 正課外学修・イベント一覧

(※すべてのイベントを対面で開催いたしました。)

### ●2022年5月19日開催【在学生・学内関係者対象】

＜ダイバーシティ推進室×社会連携教育センター共同開催＞ノートテイク養成講座

講師：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

参加人数：13名

### ●2022年6月30日開催【在学生・学内関係者対象】

＜ダイバーシティ推進室×社会連携教育センター共同開催＞ノートテイク養成講座

講師：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

参加人数：23名

### ●2022年7月21日開催【在学生・学内関係者対象】

＜文京区社会福祉協議会×社会連携教育センター共同開催＞「“ボランティア活動”基本のキ」

講師：文京区社会福祉協議会

参加人数：14名

### ●2022年10月20日開催【在学生・学内関係者対象】

「知識を経験に。はじめの一步を踏み出そう！ボランティア講座」

講師：文京区社会福祉協議会

参加人数：6名

### ●2022年12月1日開催【在学生・学内関係者対象】

＜ダイバーシティ推進室×社会連携教育センター共同開催＞ノートテイク養成講座

講師：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

参加人数：14名

### ●2022年12月17日開催

＜社会福祉学科×社会連携教育センター共同開催＞大学生と一緒に 思い出作ろうクリスマス

講師：人間社会学部社会福祉学科准教授 黒岩亮子

参加人数：親子12組（子ども20名/保護者15名）

### ●2022年2月16日開催【在学生・学内関係者対象】

＜日本航空株式会社（JAL）×日本女子大学社会連携教育センター共同開催＞JAL社員と考えるSDGs

講師：日本航空株式会社 産学連携部

参加人数：35名



## 正課外学修・イベントアンケート

イベント名：ノートテイカー養成講座

日 時：2022年5月19日（木）15：10～17：00

場 所：JWUラーニング・コモンズかえで（対面開催）

参加人数：13名

アンケート：13件（回収率：100%）

<Q1>本日のイベントにどのくらい満足していますか？

大変満足	9
満足	3
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q2>今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。（任意）

- ・ノートテイカーの内容も理解できましたし、実際の利用してる生徒さんたちのお話も大変参考になりました。
- ・初めてノートテイカを体験して、非常に難しく全くついていけなかったですが、連携して入力したり、普段はなかなか体験できないことを体験できて非常に楽しかったです。
- ・初めての経験でしたが、丁寧に教えていただき、とても楽しく参加することができました。ありがとうございました。
- ・ノートテイカーの存在はジャスミンナビでお知らせが来るまで全く知らなかったのですが、今日お話を聞いて、すごく興味を持ちました。また、実際に体験できてとても楽しかった上、その大変さも知れました。本日は本当にありがとうございました！
- ・漫画でノートテイカーという言葉を知って興味を持って参加したのですが、詳しくは知らなかったのでも勉強になりました。実際に練習をしてみて、初めてだと1人でやるのよりも2人で連携してやる方が難しいと感じました。1人のときは頑張れば着いていけるのですが、連携してやると相手の入力を見なければいけないのが大変でした。利用している学生の言葉を聞いて、少しでも力になればいいなと思いました。
- ・そもそもボランティアにも興味がなく、ノートテイカーになるかも決めていなかった。しかし、聴覚障害のある学生からノートテイカーが必要だというお話を聞き、役に立てるならと思えた。実際に利用している方からお話を聞けるのは、自分の行動が必要とされていると認識できるよかった。
- ・聴覚障がいを持つ学生のサポートをするノートテイカーについて興味を持って参加したのですが、貴重な経験が出来ました。実際に体験してみて、相手が理解しやすいようにまとめたり、二人で入力する時にタイミングを合わせたりするのが思ったより難しかったです。本学でも、聴覚障がいを持つ学生のためのボランティアがあることを知ったので、今回の養成講座に参加できて良かったです。ありがとうございました。

※原文ママ

<Q3> 今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	13
学内関係者（教員・学生）から聞いて	0
その他	0

<Q4> 社会連携教育センターには聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームがあります。このチームに参加していただけますか？

参加したい	12
参加しない	1

<Q5> 今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、大学としてまとめ、講師にお伝えします。（任意）

- ・ 講義を聞いて入力している際、どうしても聞き取れずに抜けてしまう箇所があったのですが、その際は気にせず次にいった方がよいのでしょうか。
- ・ 第二外国語の授業で全然知らない単語や文字が出てきたらどのように対応すればよいですか？
- ・ 本当は参加をしたいのですが、今のままだと支援をする側であるのに迷惑をかけてしまいそうです。ですので自信が持てるレベルになったら参加したいです。そこで、今、タイピング練習を毎日しているのですが、加えて自主練習の方法として良いものはありますか。
- ・ 入力が遅れているときでも、文章の形で書くことにはこだわったほうがいいですか。それとも箇条書きのようになってしまって大丈夫でしょうか。

※原文ママ

<Q6> 今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。（任意）

- ・ ノートテイクのように、学内で行えるボランティアがあればまた紹介していただきたいです。

※原文ママ

イベント名：ノートテイク養成講座

日 時：2022年6月30日（木）15：10～17：00

場 所：JWUラーニング・コモンズかえで（対面開催）

参加人数：23名

アンケート：19件（回収率：82.6%）

<Q1> 本日のイベントにどのくらい満足していますか？

大変満足	15
満足	4
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q2> 今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。（任意）

- ・ 実際に利用している方の話も聞けて良かった。
- ・ スクリーンが見にくいのが残念でした。
- ・ 聴覚障害を持つ方に、私でも役に立つことができると実感して嬉しかったです。知らないことば

かりでしたので、非常に勉強になりました。

- ・みんな出来ない事があって頼ることも大切で、1人1人出来ない事をお互いに助け合う事の必要性を再度確認できました。今年度はあまりノートテイク者として参加出来ていないので、再度予定を合わせて参加させて頂きたいと思います。素敵な機会をありがとうございました。
- ・ノートテイク者について学ぶとがで勉強になりました。やってみて、連携入力のタイミングなどとても難しかったですが、何か役に立てたら是非やってみたいと思いました。
- ・手書きのノートテイク者には、ついていかれそうでしたが、パソコン入力が遅くて、なかなかうまくできませんで、申し訳ございませんでした。今、バリアフリーについても授業で学んでいます。本日は、勉強になりました。
- ・PCノートテイクがどんなものか実際に体験することで知ることができたので、参加することができてよかったと思っています。今後、活動に参加したいと思っておりますが、パソコンを今まで使ってこなかったためタイピングが速く上手く打てません。そんな状態で参加しても大丈夫でしょうか？今回チャンスをいただき、ありがとうございました。
- ・ノートテイクは、相手が読んで理解できるように書かなくてはならないので、普段の授業ノートの取り方と異なり、とても難しかったです。また、手書きやパソコン入力など様々な手法でノートテイクを体験することができてとても貴重な機会となりました。私は、パソコンのタイピング操作にまだ慣れていないので、今日配られた資料などを参考にして練習したいと思います。また機会があれば、今回のようなイベントに参加したいです。
- ・ノートテイクは熟練者1人で入力しているものだと思っていましたが、今回の講義で実際は違うということを知って驚きましたし、それぞれがお互いをカバーし合いながら入力しているのを見てすごいなと思いました。あと実際に体験するのがとても楽しかったです！
- ・事前動画で予習をしてから参加できるため、より内容を理解しやすかったです。実技もレベルを少しずつ上げながら、取り組むことができ、良い経験となりました。また、講師の先生方がお話ししながら手話をしていて、手話にも興味が出てきました。
- ・貴重な体験をありがとうございました。パソコンもご用意いただき、恐縮です。
- ・自分には到底できないと思っていましたが、慣れてくるものだと聞いて安心しました。でもとても難しかったです。
- ・ノートテイクという言葉は知っていましたが具体的に何をするのか今回よく学びました。ありがとうございました！

※原文ママ

<Q3> 今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	14
学内関係者（教員・学生）から聞いて	2
その他	3

<Q4> 社会連携教育センターには聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームがあります。このチームに参加していただけますか？

参加したい	11
参加しない	8

<Q5> 今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、大学としてまとめ、講師にお伝えします。(任意)

- ・ブラウザ上でログインできるとのことだったが、サークルの研修等でも使えるのでしょうか？
- ・とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。
- ・積極的に入力をする以外でノートテイクを担当している人同士でうまく連携を取るコツは何ですか？
- ・話を聞きながら、要約し、正確に入力するのは、思っていた以上に難しかったです。実際にノートテイク者として活動するには(聴覚障がいの方にご迷惑をかけないレベルになるには)、どれくらいの練習が必要なののでしょうか？

※原文ママ

<Q6> 今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。(任意)

- ・主にボランティアに関係する講座に参加したいです
- ・実践に結びつく企画
- ・ボランティアとして、たくさんの方々(特に、高齢者や障害を持ったの方々)の役に立てるようなイベントに参加したいです。
- ・さまざまなボランティア活動について
- ・子育て支援のような地域連携型のイベントに参加してみたいです。
- ・ノートテイクのように誰かを支援する方法の紹介&体験を60~90分くらいで詰め合わせたイベントがあったら面白そうだなと思います。
- ・SDGsに関連して、自分たちにもできる取り組みを考える
- ・日本の教育問題について考える
- ・講義形式だけでなく、ワークショップやグループディスカッションメインの活動があると良いと思いました。
- ・ありがとうございました。恥ずかしながら、本学の聴覚障がいの学生がいることを知りませんでした。
- ・もう少し練習して、もう少し仕事にも余裕ができたなら、ボランティアチームにも参加したいと思っています。テレビやラジオのニュースを聞きながら、入力練習してみます。"
- ・手話のイベントなど以上

※原文ママ

イベント名：ボランティア入門講座

日 時：2022年7月21日（木） 15：10～16：30

場 所：JWUラーニング・コモンズかえで（対面開催）

参加人数：14名

アンケート：11件（回収率：78.6%）

<Q1>本日のイベントにどのくらい満足していますか？

大変満足	10
満足	0
普通	1
少し不満	0
不満	0

<Q2>今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。（任意）

- ・マイクが聞きにくかった…かも。
- ・夏休み中にボランティアに参加してみたいため、地元のボランティアセンターに相談して、どのようなボランティアが良いのか決めたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ボランティアに参加したいと思っても方法が分からなかったなので、どうすればいいのか、注意点はこれだと教えていただいて、とてもためになりました。ありがとうございます。

※原文ママ

<Q3>今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	11
学内掲示板	0
その他	0

<Q4>現在、学内のボランティアとして、聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームと妊産婦・乳幼児救護所ボランティアチームがあります。この活動をご存じでしたか？

知っている。または参加している。	8
知らない。	3

<Q5>社会連携教育センターでは、学生のみなさんのボランティア活動や地域活動を支援しています。この取り組みをご存じでしたか？

知っている。	7
知らない。	4

<Q6>今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、大学としてまとめ、講師にお伝えします。（任意）

- ・自宅から離れた地方へボランティアをしに行く場合、交通費の補助をしていただける団体はありますか？

※原文ママ

<Q7> 今回のイベントに参加して、どんなボランティア・地域活動をしてみようと思いましたか？

(任意)

- ・子どもに関する活動をしてみようと思った。
- ・食育
- ・小中高生にボランティア活動の機会を作る
- ・地元の魅力発信
- ・子どもに関わるボランティア、学習支援など
- ・動物に関わるボランティアや子どもや高齢者の方の施設でのボランティアに参加してみたいと思いました。
- ・自分の好きなことなどをボランティアにとりいれてみたいと思った。
- ・子供、高齢者の方、音楽に関わるボランティアをしてみたいと思いました。
- ・子どもと関わるボランティア
- ・趣味を活かしたボランティア(絵を描くこと等)
- ・海洋清掃、植林、花壇の整備、緑日

※原文ママ

<Q8> 今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。(任意)

- ・大学で子どもについて学んでいるため、子どもと関わるボランティアに興味があります。
- ・文京区の伝統工芸について知る、体験する

※原文ママ

イベント名：知識を経験に。はじめの一步を踏み出そう！ボランティア講座

日 時：2022年10月20日(木) 13:30~15:00

場 所：JWUラーニング・コモンズかえで(対面開催)

参加人数：6名

アンケート：6件(回収率：100%)

<Q1> 本日のイベントにどのくらい満足していますか？

大変満足	4
満足	2
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q2> 今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。(任意)

- ・ボランティアは、誰かを助けるだけでなく、自分も楽しめる活動ということ学びました。ありがとうございました。
- ・貴重なお話をありがとうございました。IVUSAという団体も初めて知って、大変興味を持ちました。
- ・実際にボランティア活動されている学生さんのお話を聞いたのは本当に貴重だと思いました。
- ・ボランティアはもっと気軽に参加していいもので、様々な人がいることを知ることができました。
- ・実際の体験談を聞いて、ボランティアがより身近な存在に感じました。

- ・ボランティアが楽しくて趣味でやっているというお話がとても印象に残り、やってみたい気持ちが強まりました。

※原文ママ

<Q3>今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	6
学内掲示板	0
その他	0

<Q4>現在、学内のボランティアとして、聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームと妊産婦・乳幼児救護所ボランティアチームがあります。この活動をご存じでしたか？

知っている。または参加している。	2
知らない。	4

<Q5>社会連携教育センターでは、学生のみなさんのボランティア活動や地域活動を支援しています。この取り組みをご存じでしたか？

知っている。	4
知らない。	2

<Q6>今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、大学としてまとめ、講師にお伝えします。（任意）

回答なし

<Q7>今回のイベントに参加して、どんなボランティア・地域活動してみようと思いましたが？（任意）

- ・子どもに関わるボランティアです
- ・ボランティアを通して、自分のやりたいことを発見したいと感じたので、自分が興味がありそうな活動
- ・印旛沼の水草抜きに興味を持ちました。
- ・地域支援や動物関係のボランティアをしてみたいです。
- ・環境保護活動と災害支援活動に挑戦してみたいなと思いました。

※原文ママ

<Q8>今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。（任意）

- ・大学主催のボランティアなどに参加したいです。
- ・これから行われるボランティアを紹介して頂けたら嬉しいです。

※原文ママ

イベント名：ノートテイクー養成講座

日 時：2022年12月1日（木） 15：10～16：40

場 所：JWUラーニング・コモンズかえで（対面開催）

参加人数：14名

アンケート：14件（回収率：100%）

<Q1>本日のイベントにどのくらい満足していますか？

大変満足	10
満足	4
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q2>今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。（任意）

- ・初めて参加したのですが、とてもわかりやすく、貴重な時間でした。
- ・ノートテイクーは以前から興味を持っていたのですが、自分にできるのか自信がありませんでした。しかし、今回経験してみて、実際にやってみたいなと思いました。
- ・以前に参加した時よりもスムーズにできたと思いますが、まだまだ通常のスピードでは難しいだろうなと思います
- ・想像以上に大変な作業でしたが、実際にノートテイクーを体験してみて、自分も力になりたいという思いが強くなりました。来年度は留学のため1年ほど休学してしまうのですが、日本に帰国したらぜひボランティアとして参加したいです。
- ・初めてノートテイクーの経験をしたので、すごく学んだことがたくさんありました。難しさや楽しさを同時に知ることができたと思いました。
- ・今回のイベントを得て、ノートテイクーボランティアに大変興味を持ち、聴覚障害学生の力になりたいと思いました。  
しかし、次学期は就職活動のため一貫した活動が難しいと思われ、後期の半年間しか参加することが出来ないかもしれません。それでも必要とさせていただきますのであれば、精一杯頑張ります。
- ・ノートテイクーの実技はやっぱり難しかったですが、やってみてとても楽しかったです。相手が文字を打っているのを見て役割分担を予想しながら、自分が打てるところをどんどん打っていくのは、確かに奪い合うぐらいの積極性があったほうが成功するなと分かりました。また、T-TAC Caption2の機能を使いこなせるようになることも大事なことのひとつだと感じました。自分のタイピング技術も高めつつ、ノートテイクーで誰かの助けに少しでもなるのなら、とても喜ばしいことだと思います。
- ・今回の講座で実際にノートテイクーを体験しましたが、授業のスピードが今回の練習よりだいぶ早いと感ずます。今後もノートテイクーの練習などがありますでしょうか

※原文ママ

<Q3>今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	14
学内関係者（教員・学生）から聞いて	0
その他	0



<Q4>社会連携教育センターには聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームがあります。このチームに参加していただけますか？

参加したい	13
参加しない	1

<Q6>今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、大学としてまとめ、講師にお伝えします。(任意)

・質問が主に3つあります。

1つ目の質問は、遠隔でのノートテイクについてです。今回はノートテイクが実際にその場にいる状態でのノートテイクでしたが、Zoomなどを用いたオンライン授業のような遠隔でも、ノートテイクをすることができるとお聞きしました。そのような遠隔のノートテイクの場合、ノートテイクに聞こえてくる音声には、学生さんが聞こえている実際の音声とのタイムラグはあるのでしょうか。

2つ目の質問は、ノートテイク時のノートテイクの人数についてです。複数人で連携してノートテイクをする際、何人で行うことが多いのでしょうか。

3つ目の質問は、ノートテイクにおける要約についてです。一人でのノートテイクでは、要約をしながら行くとお聞きしましたが、どのようなことに注意をしながら要約をするのでしょうか。お答えいただけると嬉しいです。

※原文ママ

<Q7>今後どのようなイベントに参加したいですか？具体的にお書きください。(任意)

・手話の講座に参加してみたいです。

・色々な人に関われるボランティアに興味があります。

・手話の入門的なイベントを開催して頂きたいです。以前、バイト先に耳の聞こえない方が来店されたのですが、筆談での対応しかできずもどかしい思いをしました。全て伝えられなくても、短いメッセージなどを手話で伝えられたらいいなと思ったので、そういったイベントがあれば参加したいです。

・ボランティアや福祉に関連したイベントに参加したいです。特にキャンパス内やキャンパスの近くで行うことのできるものに積極的に参加したいです。

※原文ママ

イベント名：大学生と一緒に 思い出作ろうクリスマス

日 時：2022年12月17日（土）13：30～15：30

場 所：JWUラーニング・コモンズかえで（対面開催）

参加人数：12組（お子様20名・保護者15名）

アンケート：12件（回収率：100%）

<Q1>今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	1
本学SNS（Twitter・Facebook）	0
チラシ	0
各自治体等からのお知らせ	7
その他	4

その他：紹介、妻に同行

<Q2>本日のイベント内容で良かったものはなんですか。（1つ選んでください。）

工作	9
ボッチャ	2
ビンゴ大会	1
その他	0

<Q3>本日のイベントは楽しんでいただけましたか。

大変満足	11
満足	1
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q4>本日のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか。（複数回答可）

イベント内容（工作・ボッチャ・ビンゴ大会）に興味があったから。	7
大学生と交流したかったから。	7
クリスマスのイベントに参加したかったから。	9
無料だったから。	2
日本女子大学に興味があったから。	1
福祉に興味があったから。	0
家族で思い出をつくりたかったから。	4
友達と一緒に参加したかったから。	1
地域とのかかわりが欲しかったから。	2
コロナ禍でイベントがなかったから。	2
その他	0

<Q5>本日のイベントは社会福祉学科の学生が企画しました。イベントを通して福祉に対して興味を持っていただけましたか。

はい	11
いいえ	0
わからない	1

<Q6>大学でこのようなイベントがあればまた参加してみたいですか。

はい	12
いいえ	0

<Q7>本日のイベントについて自由なご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・企画盛りだくさんで、とても楽しめました。準備大変だったと思います。ありがとうございます。  
子どもの感想→スノードームは初めて作ったのでうれしかった。ボッチャでお姉さんとハイタッチしてうれしかった。
- ・子供と参加しましたが、子供が楽しんでいてとても微笑ましかったです。企画運営と準備に携われた皆様、ありがとうございます。
- ・地域の社協からお知らせをいただいて、参加させていただきました。福祉に関心を持ち、携わってくれればと思います。
- ・今日は楽しいイベントを開催して下さりありがとうございます！最初はとても緊張していましたが、優しいお姉さん達のお陰で気持ちもほぐれ、とてもリラックスして楽しむことが出来ました。短時間で出来るかわいい工作（しかも手先を使う）アイデアが素敵でした。そして沢山褒めてくれるので、息子はニコニコでした（笑）当たり前かもしれませんが、認めてもらえるって嬉しいですね。またぜひこの様な企画をよろしくお願い致します。
- ・ありがとうございます！みんなが参加できるような企画で説明もわかりやすかったので親子共々楽しい時間を過ごせました。どの学生さんも子供の反応を見ながら絶妙な距離感で上手に関わっていらっしやっただのがとても印象に残りました。
- ・お姉さん達に手伝ってもらい可愛いスノードームが出来たと喜んでいました。とても楽しい企画をありがとうございました。
- ・全部楽しかったです（'∩'） ←子供より  
コロナ禍で学校や地域での行事がかなり減ってきている中、このような楽しいイベントを開催していただき、本当にありがとうございました。地域に大学があっても、関わる機会がないと遠い存在ですが、今回学生の方々と交流させていただいて、少し身近に感じられるようになりました。
- ・小1女兒・年中男児（と妻）と参加した父親です。  
娘は軽度の自閉症とHSCです。写真撮影を嫌がり離れたテーブルに留まった際、学生さんが、写りに行こうと誘うのではなく、側にいてそのまま過ごして下さったことに、静かに感動しました。（自分が大学生の頃なら考えもしなかった対応です。）これからも、学生の皆さんが、お人柄と専門の学びを活かして、福祉の道を究めていかれたら嬉しいです。この度は、清々しいイベントを開催いただき、ありがとうございました。
- ・普段大学生と関わる事が全く無いので良い体験ができました。ありがとうございました。子どもたちも大喜び、また機会があれば是非参加したいです。

- ・子どもはスノードーム作りをさせていただきました。とても楽しんで作っていました。また、ポッチャは白熱して盛り上がり楽しかったです。ビンゴで参加賞もいただいてしまい、ありがとうございました。このようなイベントを企画くださり、ありがとうございました。

※原文ママ

<Q8>社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・夏祭り。地域の町会の皆さんが中心となる祭りは、コロナ禍で減ってしまったイベントのひとつ
- ・また子どもと楽しめるイベントをお願いします。
- ・夏祭りなど子供達が大好きなので、長い夏休みに何かイベントがあると嬉しいです。
- ・学校が苦手な子、不登校の子どもたちでも、このように工作をしたり、ポッチャをしたりするようなイベントだと楽しく参加できるのかな、と思います。
- ・季節ごとのイベント
- ・障がいを持たれている方々とは、なかなか一緒にいる機会がないため、お互い無理のない範囲で交流できる場があるといいなと思います。

※原文ママ

イベント名：JAL社員と考えるSDGs

日 時：2023年2月16日（木）13：30～15：30

場 所：JWUラーニング・コモンズかえで（対面開催）

参加人数：35名

アンケート：34件（回収率：97%）

<Q1>日本航空講師による、講座全体の満足度をお聞かせください。

とても満足した	32
満足した	2
満足しなかった	0
全く満足しなかった	0

<Q2>問1の回答の理由を具体的にお聞かせください。

- ・とても為になった。
- ・話がすごく聞きやすく、搭乗券があることもわくわくできました。
- ・とても丁寧にお話をしてくださり、自分の学びとなったからです。
- ・話が分かりやすく、SDGsをとても身近に感じる事が出来た。ディスカッションも盛り上がり、有意義な時間を過ごすことが出来た。
- ・楽しかったから
- ・講座全体を旅で搭乗していると言うふうに見立てて、楽しみながら参加できるイベントでした。講師の方も積極的にコミュニケーションをとってくださり、とても居心地が良かったです。
- ・自分自身でSDGsを考えるととても貴重な機会になったから。
- ・内容はもちろん、講師の方の話がとても聞きやすく、わかりやすかったため。
- ・JALの取り組みについて知ることができた。
- ・実際に社員の方からお話を伺うことで、ホームページだけでは知ることができないリアルな声や取り組みに対する考えも知ることができた。

- ・主体的に自分ごととして考えることが出来たため。視野が広がったと感ずるため。
- ・日本航空がどのように地域活性化に取り組んでいるのかを具体的に知ることができ、また学部学科が多様な人とのディスカッションであったため、自分では思いつかないアイデアに出会うことが出来た点。
- ・飛行機とはまた違ったいろいろな取り組みをされていることがわかりました。
- ・JALがSDGsに関わる活動をしていることを初めて知ったから。SDGsについて考えを深められたから。
- ・この講義を受講していなかったら、知りえない話が多くあったため。
- ・上空のこと以外の事業を知ることができたため。さらにJALが、地域貢献や活性化のために、さまざまな取り組みに力を入れているところに魅力を感じたため。
- ・地域活性化という一つのテーマからご講演いただいたことで、SDGsをもっと身近に感じることができました。
- ・JALに対して、航空会社というイメージしか持っておらず、今回を通じて地域貢献、活性化に向けての取り組みについて知ることができたから。
- ・空のお仕事はもちろん、SDGsに向けた取り組みや地で行なっているお仕事など、このような機会では聞くことのできないような内容を聞くことができたから。
- ・JALの取り組みについて、新たに多くのことを知ることができた。またSDGsについてより身近に感じることができた。特に全体的な雰囲気がよく、飛行機に乗車している気分になり楽しく受講できた。
- ・一つ一つ分かりやすく、具体例も含めてお話してくださったのが新鮮でかつより自分の身近にSDGsを感じる事が出来た。
- ・内容はもちろんのこと、実際に空港に行ったような雰囲気を味わうことが出来ました。ネームタグであったり、席名など1つ1つの工夫がとても素敵だと感じました。
- ・日本航空様での取り組みについて詳しく知ることができ、新たな知識を得ることができたため。
- ・日本航空の旅客分野に関しては知っていましたが、他の地域分野に関してはまったく知りませんでした。どのような会社なのかの概要だけでなく、何に取り組んでいるのか、何に注力しているのかを知ることができたのはとても面白かったです。
- ・日本航空の航空事業以外の取り組みについて深く知ることができた。他の参加者のアイデアを聞くことができ、SDGsに関する考えが深まった。
- ・空だけではなく部分で幅広く地域活性化に取り組まれていることを知り興味深かったです。また、グループディスカッションでは他チームも含めていろいろなアイデアを見ることができ自分の考えを深められました。
- ・日本航空のことや日本航空が取り組まれている取り組みについて深く知ることが出来て非常に良かったです。
- ・具体的な企画考案から、ビジネスとしてなりたつ為の考慮など、普段使わない脳を使う良い刺激となった。
- ・そもそものSDGsとは何か、という話から企業理念や会社でのSDGsの取り組みなど順に説明してもらえたのがわかりやすくよかった。また空港や機内といったエンターテイメント性がありお心遣いいただき快適で楽しかった。

※原文ママ

< Q 3 > この講座を他の学生にも薦めたいと思いますか。

強くそう思う	23
そう思う	11
あまりそう思わない	0
全くそう思わない	0

< Q 4 > 問3の回答の理由を具体的にお聞かせください。

- ・とても勉強になる、夢のような有意義な時間だったからです。
- ・SDGsへの理解を深めながらJALの取り組みについても学ぶことができたから
- ・学校のプロジェクトで、このような自分のためになる講座があることを知っている人も多くは無  
いと思うから。
- ・航空業界のことを学びながらも、SDGsについても学ぶことができたから。
- ・SDGsについても、自分で考える機会が設けられていたから。
- ・とても楽しかったし、ためになったため。
- ・面白かったため。就活とは直結しないが航空業界に興味がある人に勧めたい。
- ・自分の考えの幅が広がるため。
- ・SDGsと聞いてもテレビなどであまり取り上げられていないような取り組みが多かったのでは  
是非知ってもらいたいと思いました。
- ・SDGsについて考えを深められたから。初めて出会った人たちとグループワークをすることで、  
就職活動の練習にもなると思ったから。
- ・JALに関して、旅客機のサービスといった漠然としたイメージしか無かった自分に、本当に多岐  
にわたるお話を聞け、JALという会社に対して少しだけ知ることが出来ましたし、もっと知りた  
いと思えたからです。
- ・航空業界について興味がある人もそうではない人も、自分の住む環境について見直す良い機会に  
なると感じたため。
- ・他の方とのグループワークがあるため。
- ・地域活性化について興味を持っている学生にとっては、どんな団体が活性化のためにどのような  
活動を行っているのかということを知ることができるから。
- ・貴社のことを知る機会はもちろん、他の学部の生徒たちなど普段関わることのない人に出会うこ  
とができたから。
- ・グループディスカッションの体験もできて、とてもためになった。
- ・これからの未来を作っていく私たちがこの講座を受けることで、より身近にSDGsを感じること  
ができるきっかけになると思うし、今まで自分たちの視野に入っていなかった人々の細かな工夫  
が目に見えて、自分もなにかしてみようと思う気持ちになったから。
- ・JALに興味がなくとも楽しめる、興味が湧くイベントだと感じたから。
- ・グループディスカッションを通して交流を深めることができたのと同時に、他の方の意見も聞く  
ことができて自分の考えを深めることができたため。
- ・一見、特定の分野に特化しているように見えるような企業であっても、様々な分野で地域社会や  
人、資源等に貢献しているということを実際に社員の方から直接聞くことが出来る機会はあまり  
ないと思うので、非常にオススメしたいと思いました。
- ・実際に考えアイデアを出し合い、共有できる経験は多くないため。
- ・他の学生との意見を交換することで、SDGsを自分ごととして考えられるから。また、日本航空

様のおもてではなかなか見ることが出来ない事業を知ることができるから。

- ・セミナーの内容や他の方のアイデアを聞ける機会もありそれを通して新たな発見が沢山あまたからです。
- ・ものの考え方の幅が広がる為、就活の前にぜひ参加するべきだと思った。
- ・学科を超えて意見を交換できる、なおかつ堅苦しくない意見交換の機会をもらえてよかった。

※原文ママ

< Q 5 > この講座を受ける前の航空業界（あるいは日本航空）の印象を教えてください。

大変良い	15
良い	14
どちらでもない	5
悪い	0
大変悪い	0

< Q 6 > この講座を受けた後の航空業界（あるいは日本航空）の印象を教えてください。

大変良い	27
良い	7
どちらでもない	0
悪い	0
大変悪い	0

< Q 7 > 問6回答で変化した（または変化しなかった）理由について具体的にお聞かせください。

- ・やはり、私の大好きなJALはいつまでも変わらぬJALだと感じたからです。
- ・興味のある業界ではあるが、情勢や社会環境に大きく左右される業界であるとおもうから
- ・航空に関するだけでなく、環境にも配慮した取り組み、または農業による地域活性化を積極的に行っていることを知ったから。
- ・講師の坂口さんがとても明るくハキハキした方だったので、航空業界の印象自体がとても良いものになりました。
- ・空輸以外の取り組みをしていると知ったから。
- ・元からとても良いイメージだったが、地域事業の取り組みなどを知ることさらに良くなった。
- ・コロナで収益が悪化し、経営が難しくなっているイメージがあったが、コロナ禍でも大地に根付いた取り組みをして、生き残る方法を模索していることがわかったため。
- ・航空事業のみ、またコロナによる低迷があった不安要素があったが、航空事業以外での取り組みに力を入れているというお話を聞くことができたから。
- ・コロナ禍でも旅客分野以外でさまざまな取り組みをしていることがわかったから。
- ・旅客機のサービス業としての会社としか思っていなかったのですが、地域創生であったりSDGsであったり、サービス業以外の事業に尽力しているというのがすごくいいなと思った。
- ・普段からJALの皆様にお世話になっており、満足度の高いサービスを提供してくださっているため、またそれが上空だけではなく地域事業として貢献していると知ったため。
- ・日本航空がさまざまな考えを持ち、種々の事業に取り組んでおり、その熱心さが伝わり感銘を受けたため。
- ・以前から旅行などで日本航空を利用しており良い印象しかないが、地域事業にも力を入れている

ということを知ることができてさらに興味が深まったから。

- ・ 貴社のことだけでなく、地域や環境、社会課題のことも考えて新しい事業や今後のビジョンを掲げていることを知ったから。
- ・ 航空事業だけでなく、地域に根付いた取り組みなど空以外のことも行っているとわかり、興味を持った。
- ・ 日本航空は、何度か搭乗させていただいたことがありましたが、旅客事業の側面の印象が強く、ファームであったり、レストランなどの取り組みがあることを知り、多方面に貢献している企業であることを知り、より印象を受けたからです。
- ・ 全体を通してとても良い印象でした。
- ・ 航空事業以外にもSDGs実現に向けた取り組みを積極的に行っていることを知り、幅広く様々な場所に良い影響を与えていることが素晴らしいと感じたため。
- ・ もともと飛行機が好きで、鳥人間サークルに所属したり、空港の飛行機の裏側が見られるようなツアーに参加したりしていたのですが、飛行機のことには知っていても航空業界に対してはあまり知識がありませんでした。どんな人たちがどんな思いで働いているのかを知ることができ、航空業界に対するイメージがさらに良くなりました。コロナの影響もあって、非常に大変な時期がまだまだ続いていると思いますが、これから旅行がもっと復活してほしいと心から思いました。
- ・ 元々日本航空の便を利用したことがあり、その際快適な時間を過ごせた。本講座で航空以外の事業でも日本航空の強みを生かしていることが知れた。
- ・ もともと利用するなかでサービスの良さでとても素敵だなという印象があったのですが、今回の講義を通して地域に貢献していることやお話しされている様子からさらに素敵な印象を持ちました。
- ・ 昨年日本航空の客室乗務員の方と一緒に仕事をさせていただく機会がありその方から日本航空について色々お話を聞いてたりよく日本航空を利用するのでもともといい印象しかありませんでしたが今回のセミナーを通してより深く日本航空について知りさらにいい印象を持てたからです。
- ・ 日本航空会社の取り組みが多岐に渡ることは知っていたが、一つのテーマに着目して改めて知ると、違った見え方があった。取り組みとして「新しい」だけでなく「当たり前」としていく姿勢が素晴らしいと感じた。
- ・ 旅客、貨物事業の他に、大地でのAgriportをはじめとする取り組みが推進されていることを知り、日常生活においては勿論、働き方という意味でもSDGsへの関心が高まりました。

※原文ママ

<Q8>この講座をより良いものにするため、ご意見・ご感想をぜひお聞かせください。(任意)

- ・ 実際に、成田の方に行ってみたいと思いました。
- ・ 今後も参加したいと思いました。ありがとうございます。
- ・ 特にありません。ランダムで席が振り分けられる点が良かったのと、現役の社員さんが講演してくれたのが良かったです。
- ・ 御料鶴に是非行ってみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ SDGsについて考えを深めることができ、満足。また、非常に凝った演出で面白かった。グループワークの時間をもう少し延長していただけるとなお良いと感じた。
- ・ 特にありません。講義全体のコンセプト含めすごく楽しませていただきました。ありがとうございます。



いました！！

- ・非常に貴重な講義をありがとうございました。
- ・SDGsについてあまり身近に感じたことがなかったため、貴社の取り組みを知り、将来を考えるきっかけとなりました。
- ・本日はありがとうございました。坂口様、田中様のお言葉遣いや綺麗なご姿勢、お優しい雰囲気など、とても感動いたしました。お二人のような女性になりたい、と心から感じました。ありがとうございました。
- ・非常に面白かったです。ありがとうございました。
- ・今回の講座を通して、SDGsを自分の事のように捉えることが出来て非常にいい機会になった。SDGsという言葉が主流になってきている今、あまり詳細が分からずにいたが、その一つ一つの実現や日本航空さんがやっている地域活性化について、様々な形で関わることを知って面白く感じた。また、自分だったらどのような企画を提案するかなど自分事で考えて共有できて、まだまだアイデアの幅が広く楽しかった。
- ・大地だけでなく、空についての講座があれば是非受講したいと感じました。
- ・色々と学ぶことが出来て面白かったです。私自身社会福祉を専攻しているため、企業と地域社会について学ぶことが出来たのも、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・講師の方の説明がとてもわかりやすく丁寧で、今後の就活でも意識したいと思うことを知ることができました。また、自分がこれからどう社会に貢献していくかについても考えるきっかけになりました。
- ・また参加したいと思ったので、次の機会をつくってくださるとありがたいです。
- ・ディスカッションのテーマをより細かく決めるとより面白いのではないかと感じた。成田の土地の環境や周辺状況を把握する事でよりの確な提案に繋がるのではと感じた。
- ・社員の方からお話を伺える貴重な機会ということで、実際の仕事現場のお話や様子がわかる動画があれば更に実感が湧いて良くなるのではないかと思います。グループディスカッションを経て出た新たな意見をもとにこの会全体としてまた議論ができれば尚有意義かなと思いました。ありがとうございました！

※原文ママ

# 社会連携活動支援助成2年目 連携協定自治体との繋がり形成

自主活動推進プロジェクトチーム 葉袋 奈美子  
家政学部住居学科教授

自発的な学生の社会連携活動を応援しようという本助成も2年目を迎え、少し応募の裾野が広がってきた。1年目よりも少し早い、6月に応募を受け付け7月に審査結果を提示することができ、夏休みの活動に結び付けることができた。

6団体の応募があり、採択・実施にいたった申請は3件であった。一次審査の書類審査については全団体通過とし、書類を見たうえで審査員が気になった点を学生に伝え、面接審査を実施した結果、3団体の採択となった。いずれも学生が意欲的に申請をしてきたものではあったが、希望する活動の内容を慎重審議の結果、十分な知識がないままの活動申請であったり、実質的には活動の際に連携する団体との調整が十分でないままの応募であったりしたことから、不採択とする活動もあった。来年度の応募に向けてアドバイスをする事となり、社会連携室職員や社会連携教育センターの教員が採択結果の通知に加えて話をする時間を持つなどして、学生の支援を行った。このような支援体制の充実を一層図ることで、本学学生の力を伸ばすことにつながるであろう。

採択された3団体はいずれも本学との連携協定を締結したばかりの北海道日高振興局管内の自治体で実施するもので、且つ研究室の有志メンバーによる活動であった。教員の丁寧なアドバイスが可能であること、また一定程度の専門知識などの積み重ねの上の活動計画であることから本学の社会連携活動として適切と判断されることが背景にあった。

児童学科学生による、「日高町の子どもたちの運動習慣や生活習慣を改善・向上するための幼稚園・保育所における運動支援活動」「日高町における「はやね・はやおき・あさごはん」運動の推進に関わる幼児の生活習慣形成の支援活動」は、学科で学んできたことを踏まえた体操・生活習慣づくりの提案で、日高町の協力を得て、保育園で活動を実施することができ、大変好評であった。地域の新聞でも活動の様子が取り上げられ、東京に住む学生が関心を持っていることが伝わった。住居学科の学生による「日高地区で小学生向けのワークショップの取り組み」は、アイヌの居住文化を子供たちに親しんでもらう取り組みで、学科で学んだ住居の模型をつくる技術や、住教育方法に加え、独自に学んだアイヌの住文化の知識を生かしたもので、放課後児童クラブで実施され、喜んでいただけた。

社会連携活動助成は、発案当初は特定の学生に対する助成金を校費にて支払うという点に対する批判的な意見も聞かれた。しかし、本年度の活動では、連携協定を締結した遠隔の自治体との積極的な交流という点からは、大変有意義なものとなった。特に連携協定締結自治体は遠隔地のものも多く、心を寄せることができても、交通費の壁がある。学生が、本学での学びを生かして、連携協定自治体に赴くという一つの形を作り出すことができた。



## 社会連携活動支援助成スケジュールおよび採択テーマ一覧

### 【スケジュール】

募集期間：2022年6月2日（木）～6月20日（月）17：00

（書類選考→面接選考→採用発表）

活動説明会：2022年7月14日（木）15：10～16：50

活動報告会：2023年3月2日（木）13：00～14：30

### 【採択テーマ一覧】

- 日高町の子どもたちの運動習慣や生活習慣を改善・向上するための幼稚園・保育所における運動支援活動
- 日高町における「はやね・はやおき・あさごはん」運動の推進に関わる幼児の生活習慣形成の支援活動
- 日高地区で小学生向けのワークショップの取り組み

# 日高町の子どもたちの運動習慣や生活習慣を改善・向上するための 幼稚園・保育所における運動支援活動

申請No. 02

家政学部児童学科 運動促し隊

大野日向 伊藤瑠南 越路萌 澤本瑛和

私たちは、北海道日高町で子どもたちの生活習慣の改善・向上を促すことを目標として推進されている「早寝早起き朝ごはん運動」のお手伝いできればという思いから、2022年6月から事前準備を始め、8月31日と9月1日には日高町で実際に活動を行った。日高町の子どもたちの全国体力テストの結果が最低水準であったことを知り、この課題を解決するためには子どもたちにゲームやテレビばかりではなく「運動」に対して楽しさを感じ、興味を持ってもらうようにするべきだと考えた。私たちは、全身を使ったコミュニケーションゲームやリズムに合わせた体操を考え、事前準備として当日の活動に向けリハーサルや改善を繰り返した。

当日、まずは富川ひばり幼稚園に訪問し3歳児に対しプログラムを行った。プログラムの主な内容としては、全身を使ったじゃんけんゲームと音楽に合わせたリズム体操である。じゃんけんゲームは身体をほぐしながらゲーム感覚で身体を動かしてもらい、楽しさや喜びを感じてもらうことを目的とした。リズム体操は、子どもたちに親しみのある楽曲『ハッピージャムジャム』に合わせ、簡単に楽しめる振り付けをしたものを真似して踊ってもらった。曲中の振り付けの中で、投げる・蹴る・走る動作を好きなように行って良いとした箇所については、決められた動きを行うだけでなく、リズム体操を通して子どもたちが自由に身体表現できるよう工夫した点である。当初このプログラムは3歳児のみに向けて行う予定だったが、園のご厚意で急遽4・5歳児にもプログラムを行った。年齢別の身体運動の発達の違いを学ぶ良い機会となった。富川ひばり幼稚園での活動後、門別わかば保育所を訪問し2・3歳児と4・5歳児にも同様のプログラムで活動を行った。なお幼稚園と保育所にはリズム体操の動画を収めたDVDをお渡しし、引き続き園生活でも踊りを楽しんでもらえるようにした。

また、事後活動として、子どもたちが継続的に運動を楽しんでもらうためにリズム体操を親子などお家の方と一緒に楽しめる振り付けにアレンジして、後日富川ひばり幼稚園と門別わかば保育所に動画をお送りした。

「じゃんけんゲームでは一緒に盛り上がってくれるか」「リズム体操は振り付けが難しすぎないか」など、さまざまな不安と緊張のなかで日高町の活動当日を迎えたが、どちらのプログラムも「もう一回やりたい！」の声が聞こえるほどの盛り上がりを見せた。しかし、2歳児のなかにはじゃんけんゲームのルールを理解できない、リズム体操の振り付けを真似することが難しい等の様子が見受けられ、発達段階に合わせてプログラムの難易度を調整する必要性を感じた。この結果を受け、当グループでは、今後子どもたちの運動習慣を促進する援助について考える際、年齢などの発達状況を考慮した運動遊びの実施方法や言葉かけ等についてさらなる研究と考案を深めていきたいと考える。



じゃんけんゲームの様子



リズム体操の様子

# 日高町における「はやね・はやおき・あさごはん」運動の推進に関わる 幼児の生活習慣形成の支援活動

申請No. 03

家政学部児童学科 子どもを健康にしたい会  
布目優実 田中涼花 板谷美奈 中村夏海

北海道日高町の子どもたちの基本的な生活習慣を定着させるという目標から、「はやね・はやおき・あさごはん」運動の推進となる活動を行った。私たちは、4、5歳の子どもたちに外遊びの大切さを伝えることを意識した活動になるように進めていった。そして、「ひだかくんのいちにち」という紙芝居を作成し、富川ひばり幼稚園と門別わかば保育所を訪れ、紙芝居を披露した。

この紙芝居は、7月から制作を始め、ペープサート形式にした。加えて基本的な生活習慣に関する〇×クイズを5題組み込み、一方向的な伝達の形にならないよう、子どもたちとコミュニケーションを取りながら、活動を進めることとした。また、このテーマを日常から触れてもらえるように、事前に紙芝居を撮影しDVDとして、訪問時に園にお渡しした。この紙芝居を制作する上で心がけたことは、4、5歳の子どもたちが話を理解しやすく、集中できるようにすることである。そのため、ペープサートは子どもたちを飽きさせずにストーリーを展開できるため、話の内容を伝えやすく理解度を高めることができるということを見習って授業で学んだので、ペープサート形式で作った。本番は、人形を子どもたちに近づけて語り掛けたり、抑揚をつけたりして感情を表現することを意識して、何度も練習を繰り返した。また、子どもたちの関心を集めるため、紙芝居の前に手遊びを取り入れることにした。手遊びは、これから何が始まるのかな？という子どもの期待感をより高めることに効果があると思われる『はじまるよ』を用いることにした。

この活動を通して、「はやね・はやおき・あさごはん」について、4、5歳の子どもたちにどのようにしたら分かりやすく、今後も続けてもらえるかを考え、子どもたちにとって親しみやすい内容で、楽しい活動であることが重要だということを見習った。まず、4、5歳の子どもたちが親しみやすいように幼稚園に通っているひだかくんを主人公とした紙芝居にしたり、役によって話す人を変え登場人物を理解しやすくしたことで、「はやね・はやおき・あさごはん」の重要性や外遊びの大切さを分かりやすく伝えられたのではないと思う。また、紙芝居の途中で子どもたちに問いかけたり、クイズをしたことで、子どもたちの反応も確認でき、楽しんでいる様子も見ることができた。「はやね・はやおき・あさごはん」への意識を継続してもらうために、園に紙芝居のDVDをお渡ししたり、後日お便りを作成して、訪問後にも生活習慣について考えてもらえるようにした。12月にお送りした保護者向けのお便りには「ひだかくんとゆきあそび」という4コマ漫画を入れ、さらに外遊びの大切さを伝えた。幼児期の基本的な生活習慣の習得はご家庭の協力は必要不可欠であるため、保護者の方にも意識してもらえるように、幼児期に基本的な生活習慣の確立が、学びに向かう力や学習態度に良い影響を及ぼすことの資料を加えた。

今回の経験を活かして、目的に合ったより良い子どもへのアプローチ方法を考えられる指導者へと成長していきたいと考える。

# さくださんと行く！作田家とアイヌの暮らし (日高地区で小学生向けのワークショップの取り組み)

申請No. 05

家政学部住居学科 JWU 住まい活動隊

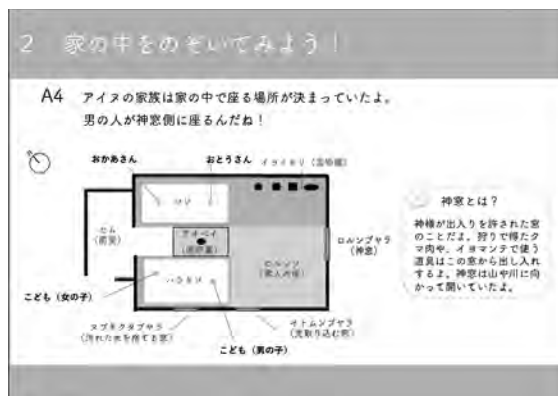
門永麻椰 小山桜馨 田代いづみ 中村真沙美 吉武美智 和田未穂

## ●目的

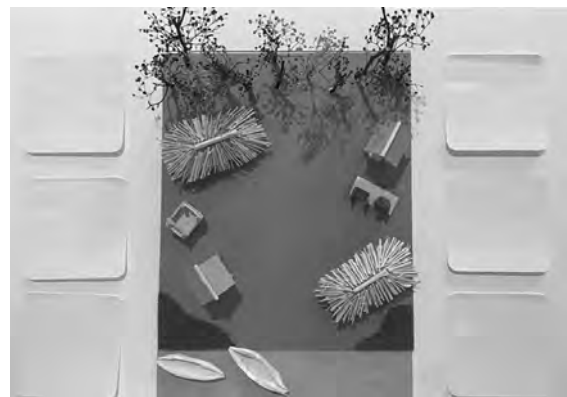
葉袋研究室では、まちづくりや地域の居住形態について研究を行っています。子どもたちが自分の住んでいるまちのことに興味を持ち、地域活動に積極的に参加してもらうことを目的に、アイヌの住環境をテーマにしたワークショップを企画しました。

## ●内容

事前に作ったワークシートと模型を用いて行いました。



ワークシート



模型

昨年度川崎市多摩区・三大学連携事業の一環として葉袋研究室で作成した、ワークシートを利用しました。これは「川崎市立日本民家園」に移築されている千葉県の作田家についての内容であり、今回のワークショップの内容に合わせて一部変更しました。子どもたちに興味を持ってもらうため、平取町にも住んでいたアイヌの暮らしについてのページを加え、水環境の近くに居住していた両者を比較しながら暮らしの場について学習してもらいました。

アイヌの集落である「コタン」には、家・倉庫・熊檻・トイレなどがありましたが、それらは地域ごとに理由のある配置になっていました。そのことから、自分がコタンを作るとしたらどのような配置でそれぞれの施設を置くか、模型を使って考えてもらうことにしました。

ワークシートの中で示したアイヌの人たちの施設配置を参考に、模型を使って自分ならではのコタンを作成してもらいました。最後に一人ずつパーツ配置の理由を発表してもらいました。

## ●ワークショップの様子

会場に入ってきて模型を見るなり、「これもらえるの！」という嬉しそうな声が聞こえました。特に模型が心を掴んだようで、ワークショップは終始和やかな雰囲気でした。ワークシートは解答用紙など設けずに、一緒に考えよう！というスタンスで進めました。どの選択肢だと思う？という全員に対しての問いかけに発言してくれる子どもが多く、活発なやりとりが行われました。

模型作りは友達と相談しつつ、真剣に悩みながら取り組んでくれて、楽しんでいる様子が伝わってきました。低学年は配置に迷っている子もいましたが、どうしてここに置いたの？と聞き私たちと一緒に

パーツの配置と付箋に書く文章を考えました。

最終的には全員が自分なりのコタンを完成させることができました。パーツ配置の紹介もたくさんの手が挙がり、時間ギリギリまで自分のコタンのイチオシポイントを発表してくれました。ワークショップ終了後、「次はいつ来るの？また会えるかな？」と子どもたちが声をかけてくれ、私たちも時間をかけて準備した達成感を得ることができました。



ワークショップの様子

### ●感想

事前準備は大変でした（北海道のホテルでも連日夜の2～3時まで準備を行なっていました、）が、同級生と熱心に取り組めた時間は今後も宝になると思いますし、子どもたちが楽しんでくれたので本当にやって良かったと思います。ワークショップの最中は小学校の先生になった気分で、子どもたちが真剣に聞いてくれることがこんなにも嬉しいこととは初めての気づきでした。また、実際に顔を合わせることで、ちょっとした話をしたり生の反応が見られることは、お互いにとって意義のある時間であり、このご時世ではありますが、貫気別で直接ワークショップを開催できて貴重な時間を過ごせました。ご協力くださった平取町役場まちづくり課の皆様、平取町教育委員会の皆様、放課後子ども教室の皆様に感謝いたします。

## JWUチームボランティアについて

聴覚障害学生の支援のためのノートテイクボランティアについては、前年度に引き続き、筑波技術大学より講師を招き年間を通して3回の講座を対面で開催した。前期には2回のノートテイク養成講座を開催し、新規登録者の募集を行い、また後期には、新規ノートテイクの募集とともに、休眠中のノートテイクのスキルアップを目指した講座を開催した。既にノートテイクとして実績のある学生に対しアンケートを実施し、支援についてのアドバイスや講座等への意見を集めた。講座各回の実績は以下の通りである。聴覚障害学生への支援は、卒業まで継続が必要であるため、今後は、ノートテイク技術向上の支援や、ボランティアの継続募集等についてダイバーシティ推進室と連携した活動が必要である。

文京区災害時妊産婦・乳児救護所ボランティアについては、既存のチームをうまく活用できるよう来年度への橋渡しが必要と考える。

### 2022年度ノートテイク養成講座

日時	受講者数	新規登録者
5月19日（木） 15：10～17：00	13名	12名
6月30日（木） 15：10～17：00	23名	11名
12月1日（木） 15：10～16：40	14名	13名



# 地域連携報告

## 心理相談室活動報告

心理相談室運営プロジェクトチーム 堀江桂吾  
人間社会学部心理学科准教授

心理相談室は、地域住民を対象とした心理相談サービスを提供し、地域住民のメンタルヘルス向上への貢献と、実践力のある臨床心理士・公認心理師の教育・養成を目指す2つの側面を備えている。西生田キャンパスからの移転に伴い、2021年5月に開室した。新型コロナウイルス感染状況を鑑み、Zoomや電話による遠隔相談を併用しつつ、相談員・来談者の体調管理に加え、手洗いや換気、パーティションの使用等感染対策下での対面相談を実施してきた。

相談業務においては、申込み問合せ数は69件（うち受理面接30件）、総面接回数は816回であった（3月末時点）。バスの広告をきっかけとした問い合わせや、近隣の医療機関・教育機関からの紹介が続いている。

また、10月30日（日）には、日本女子大学人間社会学部心理学科主催・心理相談室共催セミナーを開催した。福田憲明先生（明星大学心理学部心理学科教授）をお招きし、「スクールカウンセラーの実際—これからの学校における心理臨床—」というテーマでご講演いただいた。感染状況を考慮しZoomで実施したところ、全国から184名の方々にご参加いただいた。

そして、大学院生及び修了生の臨床実践及び研究成果の発表の場として、紀要第20巻を刊行した。同巻には、セミナー内容の報告も収録している。

### 心理相談事業（心理相談室）

室長 心理学科 堀江桂吾

相談担当者 心理学科教授 青木みのり 塩崎尚美 川崎直樹

心理学科臨床専任助教 心理学科非常勤助手

人間社会研究科心理学専攻臨床心理学領域在学生 同研究生 嘱託相談員

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	71	70	67	79	53	80	67	65	57	72	58	77	816

（3月31日現在）

# 文京区妊産婦・乳児救護所について

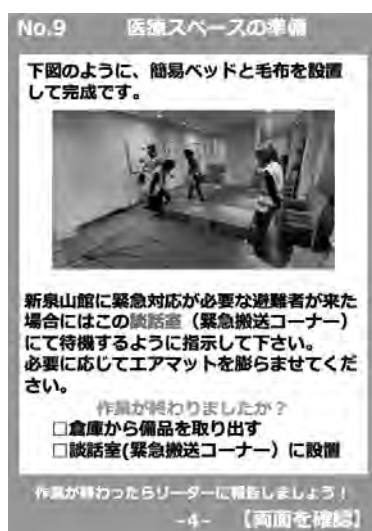
連携推進プロジェクトチーム 平田 京子  
家政学部住居学科教授

文京区との協定に基づき、災害時には、妊産婦・乳児救護所が日本女子大学新泉山館に開設される。その運営体制の確立や、物品の準備等を進めることが喫緊の課題となっている。避難者である0歳の赤ちゃんとお母さん、妊婦の方々（文京区の想定では収容人数妊婦80人、母子80組 合計240人）を守る体制を確立するため、本学では、次のような研究・授業と連動した事前準備型の活動に注力しており、教職協働・学生との協働体制の構築を試みている。

2022年度には、4つの社会連携活動を行った。

## 1. 研究と連動した事前準備型の活動

卒業論文「日本女子大学妊産婦・乳児救護所開設に向けた初動期運営計画—作業時間・順序を考慮した開設キット開発と参集職員による現場での検証—」（住居学科 磯村栞氏・小池優芽氏）では、事務局と打ち合わせを重ねながら、開設者・避難者等の全体の流れを検証しつつ、救護所の開設キットの改良を実施、キット改訂が完成した。この内容を詳細に検証し、実践訓練を実施して周知する段階にまで至った。また後述の11月の訓練の概要を動画編集し、文京区防災課、大学事務局に公表した。



卒論にて開発された日本女子大学妊産婦・乳児救護所開設キット（新規開発部分の抜粋）

## 2. 教職協働、学生との協働体制構築

社会連携授業での学生リーダー育成、授業での学生主体型グループ演習

社会連携授業（全学学生対象、2年次以上）「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習A」（担当：住居学科 平田京子）の授業では、学生リーダーとしてのスキルを育成するほか、グループ演習の形で救護所運営計画を立案、文京区や大学事務局の前で7月にプレゼンテーションを行い、指導を受けた。実際にアイデアを採用してもらえることにつながり、学生の満足度も高かった。

## 3. 自治体との連携

文京区防災課が救護所開設のための物資を購入・準備し、キットを本学に納入している。これらの使用方法や物資の追加などについての本学（施設側）からの質問をまとめ、開設キットの改良につなげた他、文京区防災課と連携しながらキットの改訂、実際の流れの提案、ルールに関する打ち合わせを実

施、その結果が防災課ともシェアされた。これらの連携活動により、物品の配備が進み、救護所の準備が一段階進んだ。現在の課題は開設時の人手不足であるが、これについて文京区とも意見交換し、本学の学生協働型運営を研究ベースで進めた。

#### 4. 文京区職員と本学職員の共同訓練実施

まず地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習Aの履修学生16名が、開設キットを用いた開設作業を2022年5月30日に総務課・社会連携室と共同で行った。学生が開設訓練を行い、キットの改善点、作業時間の計測、避難者の気持ちに寄り添う運営計画などを提案し、現場演習時に気づきをシェアした。これらの成果は卒業論文および授業のプレゼンテーション、学生の防災ボランティア育成活動に反映した。2022年度は文京区防災課と共に現場での作業を行い、それを元に7月4日の提案プレゼンテーションに防災課等が参加・講評した。11月10日午後には、文京区救護所参集職員および大学職員が合同で、卒論で開発された最新の妊産婦・乳児救護所開設キットを用いて実演するという実践型訓練を初めて実施した。当日の気づきをシェアし、アンケート調査も実施した。その模様は文京ケーブルテレビ等の取材を受けたほか、卒業論文において約11分の動画にまとめられ、文京区・大学関連部署に公表されている。



2022年11月10日 文京区・大学共同の開設訓練

# 文京区健康・体力増進事業について

家政学部児童学科

准教授 杉山 哲 司

准教授 澤 田 美砂子

文京区の委託事業である幼児の体力向上推進事業（本学との連携をとおして幼児の運動遊びの充実と運動意欲の向上を図る）について、2022年度の委託内容は、（１）園児の運動意欲や体力の向上につながる園環境の活用提案、（２）体力向上イベントの実施 であり、下記にその活動詳細について報告する。

## （１）園児の運動意欲や体力の向上につながる園環境の活用提案

文京区立幼稚園の園庭や園舎、保有する遊具や教具等の園環境の特徴や園児の実態を踏まえ、2022年度～2023年度の２年間に於いて、環境を生かした運動遊びの設定方法等、園児の運動意欲や体力の向上につながる園環境の活用方法を提案することを目的とし、2022年度は文京区立幼稚園全10園のうち5園（第一幼稚園、青柳幼稚園、小日向台町幼稚園、本駒込幼稚園、千駄木幼稚園）を中心に実地踏査および園教諭からのヒアリングを行った。杉山は第一幼稚園、千駄木幼稚園、澤田は青柳幼稚園、小日向台町幼稚園、本駒込幼稚園において、園庭、園舎、固定遊具等を中心に記録し、園庭における子どもの遊びの様子などから各園環境の特徴についてまとめ、中間報告書を提出した。

## （２）体力向上イベントの実施について

2023年3月11日に「ボルダリングにチャレンジしてみよう！」を本学第一体育館にて開催した。本イベントの企画は杉山が中心となって立案した。当日は、文京区内在住・在園・在学の2023年度就学予定の幼児、および小学1、2年生あわせて19名の子どもたちが、保護者とともに参加した。講師は本学身体運動科目で非常勤講師を務め、スポーツクライミングのユース代表ヘッドコーチでもある西谷善子先生に依頼した。また、スタッフとして体育研究室非常勤助手1名および身体運動演習「ボルダリング」受講学生4名がサポートを行った。参加した子どもたちは、もっと高いところへ登ってみたいという挑戦する意欲、どうすれば登れるかを保護者や子ども同士で話し合い、助け合って運動する楽しさや喜びを、ボルダリングを通して味わうことができたと考える。この経験が、子どもたちの遊びや運動への意欲を高め、結果として日常の身体活動量が増えるなどの変化につながることを期待したい。

## 文京区連携活動報告

文京区より指定を受けている妊産婦・乳児救護所の運営について、JWU社会連携科目で開講されている「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習A」（住居学科平田教授担当）で取り上げ、学生・教職員、文京区が三位一体となり検討を行った。また、今年度の実施の健康・体力増進事業の推進について、児童学科協力のもと実施した。

### ●令和4年度 第1回区内大学地域連携担当者会議

1. 日時 令和4年7月11日（月） 9時15分～10時15分
2. 場所 アカデミー文京 学習室
3. 議題
  - ・区からの周知事項
  - ・大学からの周知事項
  - ・大学間における情報共有について
  - ・今年度の区内大学学長懇談会について
  - ・その他

### ●令和4年度 第2回区内大学地域連携担当者会議

1. 日時 令和4年11月18日（金） 9時15分～10時15分
2. 場所 アカデミー文京 学習室
3. 議題
  - ・区からの周知事項
  - ・大学からの周知事項
  - ・大学間における情報共有について
  - ・今年度の区内大学学長懇談会について
  - ・大学と区の連携実績について
  - ・その他

### ●令和4年度 文京区内大学学長懇談会

1. 日時 令和4年12月12日（月） 14時30分～16時
2. 場所 文京シビックセンター26階 スカイホール（ハイブリッド開催）
3. 次第
  - （1）開会挨拶（文京区長）
  - （2）報告事項 大学学長講演会実績及び区内大学と区との連携実績
  - （3）懇談・意見交換  
テーマ 『大学における DX の推進状況について』

### ●令和4年度第1回文京区防災士・防災リーダー全体会 文京避難所大学2022

1. 日時 令和4年10月19日（水） 18時～20時
2. 場所 文京区民センター3階3-A会議室
3. 議題
  - 第一部：日本女子大学講師による対面講座
  - 文京避難所大学2022 -グループワークで「避難所初期課題の解決」編-
  - 日本女子大学 家政学部住居学科 教授 平田京子
  - 日本女子大学 名誉教授 石川孝重

第二部：避難所運営協議会関連事業の説明

- (1) 訓練実施状況について
- (2) 各種助成制度等について

●令和4年度第2回文京区防災士・防災リーダー全体会 文京避難所大学2022

1. 日時 令和5年2月24日（金）18時～20時
2. 場所 文京区民センター3階3-A会議室
3. 議題 第一部：避難所運営協議会関連事業の説明

- (1) 総合防災訓練等の実施状況について
- (2) 令和5年度（2023年）総合防災訓練実施予定について
- (3) 令和5年度新規事業について
- (4) 各種助成制度について
- (5) 質疑応答

第二部：ワークショップ「防災士・防災リーダーの連携による避難所運営を考える」

日本女子大学 家政学部住居学科 教授 平田京子  
日本女子大学 名誉教授 石川孝重

●「大学生による地域活動」報告会・交流会

1. 日時 令和5年3月16日（木）13時～17時
2. 場所 文京学院大学本郷キャンパス S0504コンソナホール
3. テーマ 学生ボランティア活動と地域が求めるもの

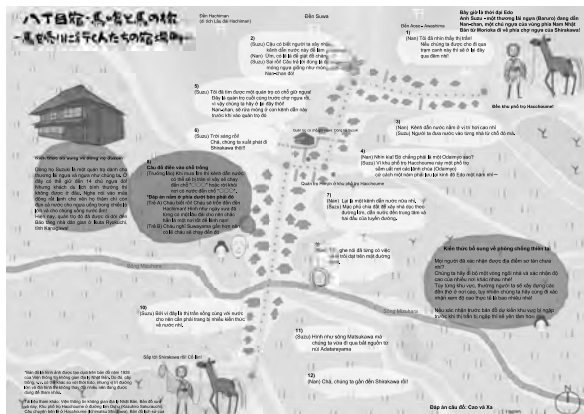
# 川崎市多摩区の大学・地域連携事業を通じた 学生と地方都市のつながり

連携推進プロジェクトチーム 薬袋 奈美子  
家政学部住居学科教授

地域連携協定の一環として取り組んできた多摩区との連携事業を、2022年度は、生田緑地内の日本民家園について扱った。日本民家園は、日本の古民家を集めた野外博物館で、国内外の観光客、また市内の小学生をはじめとした学校の学習の場としても活用されてきている。2021年度も同様のことを行ったが、2022年度は、かつてその建物を立っていた場所を確かめるワークシートの作成を実施した。取り上げる民家は3軒とし、学生自身が取り上げたい住居を選びまずは公開されている文献や、地図等を見て、ワークシートで取り上げるポイントを考えてみた。実はこれがなかなか困難で、調べる材料を得にくく、別の住宅に変えたりすることもある。寺社や城の類は、その建物にまつわる歴史や、その町にかかわる資料がそれなりに存在している。しかし、日本民家園にある古民家の多くは特別に歴史的な史料が残るような農村集落にあったわけではなく、現地に行って微地形を確かめたり、地元住民の方の話から資料を探したり、地元の資料館や図書館の郷土資料コーナーが大事である。

この取り組みの隠れテーマは、災害への備えを意識すること。古い集落の居住形態は、災害への備えをよく考えてあるが、その知恵の伝承は、文化の継承という意味でも、災害への備えという意味でも重要である。学生は現地に赴き、話を聞くことで、充実したワークシートを作成して、何百年もかけて形作られてきた先祖の知恵を見出すことができた。学生の小さな活動ではあるが、川崎市に運ばれてきた遠い民家のあった町の人々が、移築された先の町との繋がりを感じてくださったのでないだろうか。

また、今年度のもう一つ新しいテーマはマイクロ・インバウンド。外国人が多く住む日本で、海外からのインバウンドではなく、すでに日本に住む外国人が、改めて日本の魅力を理解する機会になり、ひいてはそれが日本人、川崎市民にも伝わるとよい。日本民家園が開園するきっかけを作った、麻生区にあった伊藤家についても取り上げた。2021年度にとりあげた水路のワークシートとともに、民家園から気軽に地域の町を見直すきっかけとなることも大いに期待する。



### Measures against snow in the slope area

Oh, snow piled up on the roof slid off and hit the ground. What will you do about this?

What ideas are being used to melt the snow? There are in the picture below.

This is a site layout of my family.

I focus on this pond.

In my house, we melt the snow on the pond.

With the melted snow you may have plenty of water!

\*Materials (Compiled from "Inventory of Japan Open-air Folk House Museum 14 Former Nohara family house" ) p32

## 川崎市多摩区連携活動報告

川崎市多摩区と明治大学・専修大学・本学の3大学は2005年より多摩区・3大学連携協定を締結しており、様々な取り組みを共催してきた。新型コロナウイルス感染症の影響により、web開催が続いた「多摩区3大学コンサート」も、3年ぶりに有観客で開催され、本学公認サークルのマンドリンクラブが参加した。また、同じく中止や縮小開催を余儀なくされていた「多摩ふれあいまつり」や「多摩区エコフェスタ」にも、多摩区より協力依頼を受け本学からの参加が実現した。

### ●令和4年度 第1回多摩区・3大学連携協議会

1. 日時 令和4年4月22日（金） 14時～14時57分
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 議題
  - ・令和3年度大学・地域連携事業の報告について
  - ・令和4年度インターンシップについて
  - ・第1回多摩区制50周年記念事業実行委員会について
  - ・多摩区3大学コンサートについて
  - ・令和4年度各種事業実施に係る照会について
  - ・令和4年度スケジュールについて
  - ・各大学からの報告事項
  - ・地域デザイン会議の開催について

### ●令和4年度 第2回多摩区・3大学連携協議会

1. 日時 令和4年9月29日（木） 10時～11時
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 議題
  - ・令和4年度インターンシップ実施結果報告
  - ・第2回多摩区制50周年記念事業実行委員会について
  - ・令和4年度大学生の地域参加促進事業（たまなび）実施について
  - ・令和4年地域向け情報誌（たまなびNews）の発行について
  - ・令和5年度大学・地域連携事業の募集について
  - ・令和4年度大学・地域連携事業中間報告について
  - ・令和4年度多摩区3大学コンサートについて
  - ・令和4年度のスケジュールについて
  - ・各大学からの報告事項

### ●令和4年度 第3回多摩区・3大学連携協議会

1. 日時 令和5年1月30日（月） 13時30分～14時55分
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 議題
  - ・第99回箱根駅伝出場応援の取組結果について
  - ・第3、4回多摩区制50周年記念事業実行委員会について
  - ・令和4年度大学・地域連携事業報告会について
  - ・令和5年度大学・地域連携事業について
  - ・令和4年度大学生の地域参加促進事業（たまなび）について



- ・令和5年度大学生の地域参加促進事業（たまなび）実施について
- ・令和5年度生田緑地エントランススポット大学連携フィールドワーク協働事業委託の実施について
- ・生田緑地エントランススポットの広報パネルについて
- ・令和5年度のスケジュールについて
- ・令和6年度多摩区3大学コンサートの開催日程について
- ・各大学からの報告事項について

●令和4年度 第1回川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会

1. 日時 令和4年9月6日（火） 18時～21時
2. 場所 川崎市ハイブリッド開催
3. 議題
  - ・川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組
  - ・地域包括ケアシステムに関する市内の取組状況報告
  - ・グループディスカッション「企業・団体が支援を必要とする人とつながるには」

●令和4年度 第2回川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会

1. 日時 令和5年2月6日（月） 18時～20時
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 議題
  - ・川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組
  - ・地域包括ケアシステムに関する市内の活動紹介
  - ・グループディスカッション「多様な主体の活躍」

●第21回多摩ふれあいまつり

1. 日時 令和4年6月19日（日） 10時～15時
2. 場所 多摩市民館
3. 参加 人間社会学部社会福祉学科 准教授 黒岩亮子 同学科有志学生（運営協力）  
日本女子大学箏曲研究会（琴演奏）

●多摩区エコフェスタ

1. 日時 令和4年8月5日（金） 10時～15時
2. 場所 多摩区役所
3. 参加 理学部化学生命科学科 専任講師 市川さおり  
同学科有志学生（体験プログラム出展）

●多摩区3大学コンサート

1. 日時 令和4年11月12日（土） 14時～16時15分
2. 場所 多摩市民館
3. 参加 日本女子大学公認サークル マンドリンクラブ

## 板橋区立中央図書館との連携事業「親子読み聞かせ講座」

家政学部児童学科准教授 今田由香

本学と包括連携協定を締結している板橋区教育委員会との連携事業のひとつとして、2022年10月6日(木)、板橋区立中央図書館に於いて「親子読み聞かせ講座」が開催された。当日は、雨天の中、板橋区在住・在勤・在学中の0歳から3歳までの子どもたちとその家族、16組が図書館ホールに集い、児童学科今田ゼミの3年生9名と共に絵本を楽しんだ。

本講座は3つの内容で進行した。はじめに、乳幼児が絵本と出会うことの意味や赤ちゃんを魅了する絵本の仕組みについてミニ講義をした。その後、2～3組の親子と学生がチームになって、平山和子作『くだもの』(福音館書店,1981)とかがくいひろし作『だるまさんが』(ブロンズ新社,2008)を楽しんだ。

2冊の絵本に対する子どもたちの反応は実にさまざまだった。美味しそうな果物の絵に小さな指で触れながら、「あー、あー」と声を出してみたり、絵本に描かれた「だるまさん」の動きに合わせて身体を揺らしてみたり、絵本のなかに自分が知っているものを発見し、そのことを学生に言葉や身振りで伝えようとする3歳児の姿もあった。

講座の後半には、図書館が所蔵する絵本を参加者が自由に選んで読むことができる時間も設けた。すると、参加者と学生の関わりだけではなく、家族同士、赤ちゃん同士の会話や触れ合いが自然と生まれた。地域の図書館でこのような講座を開催することの意義を実感した場面であった。

「絵本読み聞かせ講座」への参加は、児童学科の学生たちにとっても貴重な経験となったようである。赤ちゃんや幼児の笑顔と生命力に触れ、子どもについて学ぶことの意義、人と人のあたたかな交流を生む絵本の力を再確認できた様子であった。

本講座は2023年も継続して開催される予定である。今後も板橋区立中央図書館と協働し、絵本を介して学生と地域の人々が交流し、育ちあい、読書の楽しさを味わえる講座を展開したいと考えている。



# 板橋区立中央図書館との連携事業「みんなで歌おう！わらべ歌」

家政学部児童学科教授 根津 知佳子

2023年2月12日（日）、本学と包括連携協定を締結している板橋区教育委員会との連携事業として、板橋区立中央図書館内の図書館ホールにてイベント「みんなで歌おう！わらべ歌」を実施した。まだコロナ禍で活動が制限されていた時期だったことから、小学生11名とご家族が安心して参加できるように準備を進めた。当日は、リーダー（根津）の補助として図書館スタッフ3名と大学院生2名が子ども達に寄り添い、①導入 ②わらべ歌遊び ③わらべ歌収集の流れでプログラムを構成した。

この活動は、板橋区立中央図書館の姉妹図書館であるイタリアボローニャ市立サラボルサ児童図書館の「POLPA（ポルパ）」という「わらべ歌の収集プロジェクト」との連携事業として位置づけられている。当日までに、2022年秋に実施されたボローニャのワークショップを参考にして、「P（POESIA）：詩」「O（ORALE）：口伝えの」「L（LUDICA）：遊戯的」「P（PUERILE）：子どもの」「A（AUTENTICA）：本物の、正真正銘」というこの活動理念を重視した活動案を考えた。特に、ボローニャが大切にしている「子どもたちが遊ぶときに自発的に歌うこと」「子どもたち自身の詩を引き出すこと」ができるように、図書館外の公園スペース（みんなの広場）を活用し「活動の自然さ」と「公園の自然」を意識した活動になるよう心がけた。

10時から1階の図書館ホールで「あんたがたどこさ」「ひらいたひらいた」などの活動を開始し、みんなの広場に移動してからは、「じゃんけんゲーム」「ゆうびんやさん（大縄）」の遊びを共有した。その後ホールに戻り、イタリア国旗カラー（赤・緑・白）のチームに分かれて「絵かきうた」「からだあそび」などの収集を行った。

以上の活動を通して、身体とことばやメロディが自然に一体になるわらべ歌には、昭和・平成・令和といった時代や世代を超えて、遊びを共有することのできる魅力があることを再認識しただけではなく、多文化理解や他者理解を深めることができる可能性を感じる事ができた。



## 北海道日高管内7町・日高振興局・日高町村会との 包括連携について

本学と北海道日高振興局、及び当振興局内の7町（日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町）において、2021年度に締結された包括協定を受け、オンライン授業や学生による現地訪問など、様々な取り組みが実施された。

また、秋には各町長が本学を表敬訪問され、これまで協定の締結式も含めオンラインを余儀なくされてきたが、改めて本学今市理事長、篠原学長をはじめ、当センター関係者と対面にて懇談の場を持つことが実現された。

秋の目白祭では各町より協賛品を提供いただき、来場者へ配布、PRをした。

前期授業	
家政学部 被服学科 森理恵	<b>被服学科「民族服飾論」</b> 北海道平取町とオンラインでつなぎ、博物館見学やアイヌに関わる説明をしていただく。
家政学部 児童学科 澤田美砂子	<b>児童学科「保育内容演習」</b> 6月13日（月） 北海道日高町（教育委員会）とオンラインでつなぎ、日高町教育委員会の取り組みと行っている、「はやね・はやおき・あさごはん」の取り組みを直接説明いただく。 協力：日高町教育委員会・日高町役場企画財政課
日高管内訪問	
人間社会学部 文化学科 中西裕二 学生17名	8月29日（月）～9月1日（木） 調査・視察 日高軽種馬農協北海道市場（新ひだか町） うらかわ優駿ビレッジAERU（浦河町） 様似ダム・アポイ岳ビジターセンター（様似町） 百人浜展望台・えりも岬（えりも町） レ・コード館（新冠町） 二風谷アイヌ文化博物館（平取町） 紋別競馬場（日高町） ワークショップ 場所：浦河町総合文化会館
家政学部 住居学科 薬袋奈美子 学生3名	8月29日（月）～9月2日（金） 調査・視察 二風谷アイヌ文化博物館（平取町） 貫気別生活館（平取町） 貫気別地区（平取町） 平取町立図書館 郷土資料収集方法の指導（平取町） 貫気別ダム管理支所・資料館 文化的景観学修 国立アイヌ民族博物館 ワークショップ 浦河町総合文化会館 アイヌ民族資料館（新ひだか町）、平取町役場 二風谷アイヌ文化博物館（平取町）、貫気別生活館（平取町）

家政学部 児童学科 澤田美砂子 学生7名	8月31日(水)～9月1日(木) 日高町 各幼稚園にて調査 富川ひばり幼稚園(運動遊びに関する調査)(日高町) 日高町役場 紋別わかば保育所(運動遊びに関する調査)(日高町)
家政学部 食物学科 藤井恵子 学生4名	9月7日(水)～9月9日(金) 浦河町役場、かとう農園(浦河町)、境町小学校(浦河町) 境町小学校(浦河町)、うらかわ菅農園(浦河町) 梅月堂手取菓子舗(浦河町)、パティスリーラピラータ洋菓子店(浦河町) 浦河町観光協会、浦河町郷土資料館・馬事資料館、浦河町役場
日高管内7町長表敬訪問	
	日時:11月17日(木)14時～15時 場所:日本女子大学目白キャンパス 新泉山館大会議室

## JWU社会連携科目での北海道日高管内7町・ 日高振興局・日高町村会との連携

連携推進プロジェクトチーム 中西裕二  
人間社会学部文化学科教授

2022年度は、後期のJWU社会連携科目「地域・社会課題を考える」で日高を取り上げ、学生が日高振興局、振興局内7町でおこなうボランティア案を考え、パワーポイントにまとめた（日高振興局及び局内7町の担当者には、そのPPTファイルは送付済み）。また、授業とは別であるが、8月に日高振興局、局内7町の方々と学生（17名）によるワークショップを開催した。本企画については、本学の特別重点化資金からの助成を受けた。その内容は、次の通りである。8月28日（日）の夜に北海道入りし、8月29日（月）は現地に移動し各町の視察を行った。30日（火）、31日（水）に浦河町総合文化会館において、学生と自治体からの参加者が4つのグループに分かれ、「農産品」「滞在型プログラム」「観光」「SDGs」をテーマにその課題解決のプログラムを作成し、「日高地方の農産品の可能性を広げる」「滞在型プログラムの開発について」「日高観光振興とアイヌ文化保存」「日高エネルギーコスト提案」というタイトルで31日夕方にプレゼンテーションをおこなった。なお、本ワークショップについては新聞各社が訪れ、日高報知新聞では2022年9月3日付に「日本女子大が交流連携事業—浦河町で日高地域の課題解決策発表」、北海道新聞・日高版では2022年9月7日付に「管内活性化 日本女子大生が探求—協定後、浦河で初のワークショップ」というタイトルで大きく報道された。



2022年9月3日付日高報知新聞



2022年9月7日付北海道新聞

# 学生が主体となった北海道浦河町との地域連携の取り組み

家政学部食物学科教授 藤井 恵子

北海道日高エリアは本学と相互協力に関する協定を締結している地域で、人口減少が進んでいる。故に地域活性化に向けた取り組みが不可欠であり、特に若い世代に関心を持ってもらうことが重要である。浦河町は夏いちごが特産品で、我々は昨年度本学の社会連携プロジェクトにおいて、夏いちごの品質特性と加工特性を明らかにし、夏いちごの特性を活かしたユニバーサルデザインフードのレシピの考案・開発を行った。今年度は、「食」の分野から地域活性化を担うことを目的とし、学生が現地の「食」に関するニーズや課題を農園、菓子店、レストランなどでヒアリングし、課題解決の為に何ができるかを考え、立案し、地域密着型の社会実装に向けた取り組みを行った。これらのヒアリング結果を基に、①最新のトレンドや購買行動などの情報収集、②夏いちご関連商品の喫食者の意見収集、③夏いちご利用の斬新なアイデアの募集の3つを目的とした調査を行った。

「食」に関するニーズや課題については、浦河町においては、夏いちごが採れる場所は北海道の中でも少ないという希少価値を活かして、夏いちごをもっと広めたいという思いが現地にあることが明らかになった。夏いちごは身が硬く、酸味が強いという特徴があり、他のフルーツと比べると消費者からは好まれにくい。また、赤い実以外にも栽培の過程で廃棄している未熟果実やいちごの葉を有効活用できないか模索中であることも明らかになった。いちご農家からは、消費者がどんなことを重視して買い物をしていて、今どんなものが流行っているのかを知りたい、菓子店からは、浦河町の土産は少なく、土産になるような商品がほしいという要望があった。

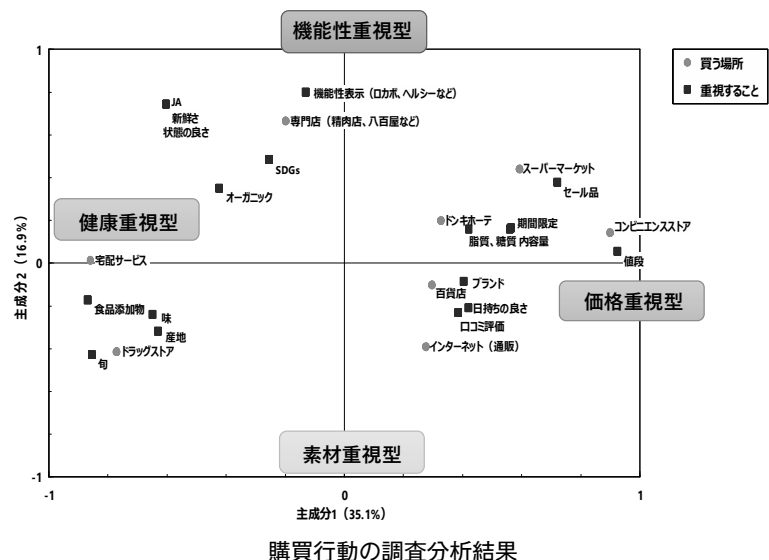
そこで最新のトレンドや購買行動に関するアンケートを作成し、学内外の10～70代の男女204名にGoogle formを用いて回答を依頼した。結果については主成分分析を行い、報告書を冊子にまとめた。

最新のトレンドや購買行動については、韓国や台湾の食べ物に注目が集まっており、食事においては健康志向でオートミール、ハト麦、高たんぱくの食品を選択する志向にあることが明らかになった。また、スイーツにおいては写真映える見た目が重視されることが明らかになった。

現地の夏いちご関連商品については、夏いちごドレッシングと夏いちごの未熟果実を使ったピクルスを本学食物学科の学生約40名に試食してもらい、併せて販売方法等に関する意見を収集した。ドレッシングにおいては、いちごの味が濃く、酸味が強く色や味が好ましいと評価された。ピクルスにおいてはやや硬く、酸味が強いと評価され、香りや総合評価においては好みが分かれる結果となった。販売方法は、ドレッシングにおいては家庭用で100～200mlで150～250円、贈答用で300～500円が望ましいという結果が得られた。

夏いちごを用いたアイデアについては、食物学科の学生約30名に夏いちごの特徴を情報提供した上で新商品のアイデアを募集し、カップ総菜のような商品、バンズやソース、パテ全てにいちごが練り込まれているバーガー、いちごの浅漬けなどが提案された。

これらの結果を学生たちが報告書



にまとめ、2023年3月7日に浦河町役場において研究成果を報告した。報告会には浦河町役場産業課、企画課、浦河町観光協会、地元紙の記者、計13名が参加し、「とても参考になる。この中から1つでも商品化できたら」との評価を頂いた。またいちご農園からは、新商品を販売する際に非常に参考になる情報であり、新しいアイデアの商品化を検討したいという評価を頂いた。報告会の様子は、2023年3月7日付日高報知新聞において、3月9日には北海道新聞において紹介された。

さらに、札幌市のセンチュリーロイヤルホテルにおいて、本学学生のアイデア集の中の『いちごの浅漬け』やピザ、スイーツが当該ホテルのシェフによってアレンジされメニュー化された。

本活動は参加した学生にとって、リーダーシップ・独創性・協調性を発揮する学びと発見の機会となり、本学の三綱領に基づき主体的に社会貢献を行った意義のある活動となった。本学にとっては、このような取り組み、経験、成果は潜在能力の新たな発見となり、学生たちの人格形成に大きな影響を与える場を提供したものと考えられた。今後、学生が社会に出た際に、これらの経験が様々な問題解決能力に活かされることが期待される。



2023年3月9日付北海道新聞



- 夏いちご「すずあかね」のピクルス(写真左)
- 夏いちご「すずあかね」とチーズのピッツア(写真中央)
- 夏いちご「すずあかね」のムース  
とんがりロードのバイ添え(写真右)

夏いちご「すずあかね」を使った浅漬けやピザ、スイーツなど、日本女子大学家政学部食物学科の学生によるアイデアをシェフがアレンジいたしました。スカイレストラン「とんがりランチ」「とんがりディナー」にてご提供いたします。

センチュリーロイヤルホテルのパンフレットに掲載されたいちごのアイデアメニュー



## 被服学科科目「民族服飾論」平取町連携オンライン授業

家政学部被服学科教授 森 理 恵

2022年度の被服学科選択科目「民族服飾論」（開講年次1年次）の第3週と第4週（4月26日（火）と5月10日（火）1限）において、平取町との連携によりオンライン授業をおこなった。内容は次のとおりである。なお受講生には、連携先より事前学習の資料を頂戴し、LMSを通して配布した。

第1日目 4月26日（火）受講生30名

授業担当者（森）より概要説明

●「アイヌの歴史と文化」

平取町立二風谷アイヌ文化博物館学芸員 廣岡絵美様

オンライン博物館見学 約30分 レクチャー 約50分

第2日目 5月10日（火）受講生28名

授業担当者（森）より概要説明

●「大地連携ワークショップ」の紹介 約20分

平取町アイヌ文化振興公社 木村美咲様

●アットゥシ織を用いた服飾デザインの事例紹介 約20分

二風谷民芸組合 アットゥシ織職人 柴田幸宏様

●「アイヌ文化を継承・振興するための環境づくり」 約50分

平取町役場アイヌ施策推進課 イオル整備推進係 吉原秀喜様

授業終了後は学生よりLMSを通してリアクションペーパーを回収し、質問については廣岡様、吉原様より文書で回答いただき、学生と共有した。学生からは貴重な見学ができた、貴重なレクチャーを聞いた、引き続きアイヌ文化について関心を持ち学んでいきたい、などの肯定的な意見が寄せられた。引き続き同様の取り組みができるとよいと思われる。

# 北区との連携事業「学習支援教室講師派遣/心理ケア訪問相談会」 活動報告

人間社会学部心理学科 准教授 堀江桂吾

## 1. 子ども・若者応援基金 個人チャレンジ助成

～夢絵師プロジェクト～

講師：心理学科准教授 堀江桂吾 インタビュイー：宮崎奈々子（心理学専攻修士1年）

日時：2022年7月30日（土）10：00～12：00

子どもの心のケアに関わる仕事とイラストレーターの仕事に関心を持つ小学校6年生女子児童およびその保護者が大学を訪問した。大学院生に対し、「心理の勉強をしたいと思ったきっかけ」等についてインタビューを行い、大学院生、および講師より回答した。

## 2. 学習支援教室合同研修会

心理ケア研修「発達障害をもつ児童・生徒とのかかわり」

講師：心理学科准教授 堀江桂吾

日時：2022年11月25日（金）18：00～20：00 岸町ふれあい館 第5集会室

学習支援に悩むボランティアスタッフが多いことから、学習支援の難しさの背景にある、子どもの発達障害について講義を行った。その後、質疑応答を実施した。

## 3. 訪問相談会

### ●第1回 田端学習支援教室

講師：心理学科教授 川崎直樹

日時：2022年12月7日（水）17：00～18：30

ボランティアスタッフ5名と社会福祉協議会職員2名が参加した。スタッフより、特定の男児への対応に悩んでいることが報告された。講師より、行動だけでなく、その背景にある心理状態を想像するようアドバイスを行った。

### ●第2回 東十条教室

講師：心理学科教授 塩崎尚美

日時：2023年1月17日（火）16：30～17：50

ボランティアスタッフ5名と社会福祉協議会職員2名が参加した。スタッフより事前にあった相談内容（愛着障害のある児童への対応、感染症対策と児童の学習支援との兼ね合いなど）に対して、講師よりアドバイス（行動の背景を理解する、目標を明確にする、など）を行った。

### ●第3回 桐ヶ丘学習支援教室

講師：心理学科准教授 堀江桂吾

日時：2023年3月11日（土）16：00～17：05

ボランティアスタッフ8名、社会福祉協議会職員2名が参加した。相談会前の時間で教室の様子を見学した。学習に苦手意識のある子どもへの対応や、意図が伝わりにくい子どもへの対応に関する質問があり、講師よりアドバイス（仮説としての見立てを立てて関わりの中で検証する）を行った。

# 産官学連携報告

## AI、データサイエンス、ICTに関する社会連携活動（2022年度）

連携推進プロジェクトチーム 長谷川 治 久  
理学部数物情報科学科教授

新型コロナウイルスについては、変異株の流行が断続的に発生しつつも収束に向かう様子を見せ、本学の授業も対面形式が主体となってきた。同時にオンライン授業の数は減少したが、それが適していると思われる授業では継続的に利用されている。産業界でもリモートワークは継続的に利用され、多様な働き方を認めることでより良いパフォーマンスを引き出すことが模索されている。今回の災禍は、感染状況や人々の行動などをビッグデータによって分析することの重要性を社会に印象付ける機会ともなった。それにともない、AI、データサイエンス、ICT関連技術は社会により定着し、ICTを有効活用できるか否かが活動の成否につながるようになってきたと考えられる。

本学においては、社会連携科目においてAI、データサイエンス、ICTに関する社会連携科目が設置されている。具体的には「社会におけるICT、データサイエンス活用A」、「社会におけるICT、データサイエンス活用B」、「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習C」（以下、「活用A」、「活用B」、「クリプロC」）の3科目であり、昨年度の開講準備を経て今年度無事に開講することができた。これらの科目では、社会の動向を意識しつつ、企業などと連携しながらAIやデータサイエンス、ICTについて実践的に学ぶ。まさに上述の能力を育成するのに適した科目となっている。

「活用A」（湯浅且敏 共立女子大学 准教授）は、AIなどの先進的な情報科学技術を活用して社会問題の解決方法を提案できることを到達目標とし、企業（株式会社ラック、NTTアドバンステクノロジー株式会社）と連携したPBLを行った。履修登録は8学科、13名。「活用B」（齊藤典明 東京通信大学 教授）では、富士通クラウドテクノロジーズ社と連携し、社会に必要とされるモバイルアプリケーションを企画、開発する能力を養う実習の内容を含む講義を行った。履修登録は11学科、41名。「クリプロC」（小倉拓郎 筑波大学生命環境系 助教）では、地理情報システム（GIS）から得られるデータを活用しながら地域の魅力、問題を可視化して考察する演習を実施した。履修登録は3学科、12名。初年度として十分な履修があったが科目間にはばらつきがあり、比較的少なかった2科目はより多様な学科より多くの履修があるようにしていきたい。

# 日本総合住生活株式会社との産学連携について

連携推進プロジェクトチーム 定行 まり子  
 家政学部住居学科教授  
 家政学部住居学科学術研究員 古賀 蘭子

本学と日本総合住生活株式会社（以下「JS」という）は、2020年8月13日（木）に産学連携による寄附授業の協定について締結式を執り行った。2021年度より前期には寄附授業を実施し、後期には学生を対象とした「住まい・団地・まちづくり」論文・制作賞を開催している。

## 1 寄附授業

2022年度の寄附授業は、前期に学部、後期に大学院修士課程においてそれぞれ開催した。

学部授業は、「JWUキャリア科目・JWU社会連携科目」の中の「社会連携科目」に位置づけられ、「JS寄附講座 住まい・団地・まちづくりフィールドスタディ」と題し、2年次から4年次を対象に授業をすすめた。授業を通じて、学生と企業が様々な社会的課題を効果的に解決すべく、メインテーマを「地域資産としての団地の再生及び地域の活性化」と設定し、団地に関係の深い講師の特別講義、清瀬旭が丘団地及び周辺地域や、ひばりが丘団地への見学等によりフィールドの実態把握をした上で団地の課題解決・提案型ワークショップを実施した。

大学院授業は、家政学研究科住居学専攻の一授業科目として、「JS寄附講座 都市居住計画論」が設定された。赤羽台団地等の団地見学や、団地に関係の深い講師の特別講義を踏まえ、UR住宅団地を対象に、都市生活者のための集合住宅や地域施設の計画・設計の方法の習得を目指した。

表 2022年度 寄附授業での特別講師 / フィールドワーク対象団地・エリア

団地に関する著名人・企業等による講義概要	
「UR賃貸住宅の概要」 日本総合住生活株式会社 経営企画部 田中敏宏氏	学部
「UR賃貸住宅における団地再生・コミュニティ活性化の取組み」 日本総合住生活株式会社 経営企画部 企画課 石田元也氏	学部
「団地におけるネイバーフッドデザイン」 HITOTOWA Inc.代表取締役 荒 昌史氏	学部 /院
「多摩ニュータウンにおける取組み」 スタジオメガネ横溝惇氏	学部
「地域資産としての団地の再生・活用事例紹介」 日本総合住生活株式会社 住生活事業計画部 事業計画課 奥寺氏 柴崎氏 菅谷氏	学部
「ひばりが丘団地エリアマネジメント」 HITOTOWA Inc.代表取締役 荒 昌史氏	学部
「団地の歴史」 団地研究所 井関和朗氏	院
「団地と多文化共生」 朝日新聞 国際発信部 大島隆氏	院
「戦後史」の中の住宅団地開発-高度成長に光と影 人間社会学部 現代社会学科 上田 誠一准教授	院
フィールドワーク対象団地・エリア	
ヌーヴェル赤羽台/赤羽台団地の見学	学部 /院
清瀬旭が丘団地見学	学部
ひばりが丘団地見学	学部
清瀬旭が丘団地・周辺地域見学	学部

## 2 卒論・修論賞 –JS「住まい・団地・まちづくり」論文・制作賞

本学学生の優れた研究成果を褒賞することにより、創造性及び自主性を備えた人材の育成を図ることを目的にJS「住まい・団地・まちづくり」論文・制作賞を開催した。2022年度は、18名からの応募があり、JSより石渡 廣一顧問をはじめ、寄附授業担当の3名の社員様、日本女子大学からは今市 涼子理事長、篠原 聡子学長及び寄附授業担当の定行（院授業担当）、古賀（学部授業担当）の計8名が審査を担当し、最優秀賞、産学連携賞、社会連携賞の3賞をはじめ、特別賞、優秀賞、奨励賞を決定した。2023年3月2日には表彰式を対面・オンライン同時開催し、最優秀賞、産学連携賞、社会連携賞の3賞のプレゼンテーションが行われた。

寄附授業は2023年度までの協定であり、次年度もJSと本学がより連携を深め、社会と学術との融合による新しい創造の実現を目指している。



# 株式会社読売広告社との産学連携について

連携推進プロジェクトチーム 中西裕二  
人間社会学部文化学科教授

2022年度も読売広告社による寄附講座でJWU社会連携科目である「題解決型ワークショップを用いた企画開発」を実施した。本年度は集中講義の形式とし、9月3日（土）～9月6日（火）に本学で行われた。本年度は株式会社パピレスにご参加いただき、パピレスの課題解決案を学生が作成しプレゼンテーションしていくという内容であった。株式会社パピレスは、2007年から開始した業界初の電子書籍レンタルサイト「Rental!」を運営するIT系企業で、コミック（マンガ）を中心に、PC・スマートフォン・タブレット等、マルチデバイスに対応したサービスを展開している。株式会社パピレスからは、松井康子社長をはじめ常時5～6名の社員の方がワークショップに参加した。とくに松井社長は、授業の全時間に参加し、学生のプレゼンテーションを熱心に聞いていた。内容としては、パピレスの電子書籍レンタルサービスの新たな事業展開の企画案を考える、新しいマンガのストーリーの作成、Webtoonという、韓国発の縦スクロールで読むマンガの企画案、などである。学生の斬新な提案、創造性豊かな発想はパピレス側に好評で、とくに今後世界的に需要が高まると考えられているWebtoonの活用については、学生から多くの意見が寄せられ、それに大いに刺激を受けていた様子であった。

# ミツカンパートナーズとの産学連携について

家政学部食物学科教授 飯田文子

2022年3月に日本女子大学と株式会社Mizkan Partnersは、双方がもつ人的資源、物的資源、知的資源を相互に活用することにより、「人と社会と地球の健康」「新しいおいしさで変えていく社会」の実現に向けて、食に関する社会課題の研究、課題解決及びその情報発信を目的として産学連携協定を締結した。その一環として、2022年後期に産学連携授業「にっぽん食を考える」を行った。「にっぽん食」とは、本協定により新たに考案した名称で、日本で古くから受け継がれてきた“和食”が、食文化の多様化とともに“現代の日本人の食”となり、さらなる食文化・食に対する価値観の多様化によって変化する、これからの新たな食スタイルをさす。今回の授業は、8学科11名の学生が受講し、日本女子大学の食教育の歴史や日本食を学ぶ講義、健康的な食生活や環境に配慮した食に関する講義を学び、その上で現在の日本人の食について、アンケートなど実態を認識するワークショップを行った。さらに、Mizkanからは、ポン酢開発者の視点、次世代型の食ZENB開発者の講義により新しい食を開発する上で大切なことも学んだ。以上を統合して「にっぽん食」の概念をグループに分かれて提案した。授業からみえた「にっぽん食」とは、

「様々に変容してきた日本人の現在の食のあり方を受け入れた上で、

## ・持続可能な食：

自給率向上、食品ロス削減を視野に入れた食材・調理法を使用すること。簡単・簡便に調理でき、つくり続けることができるレシピであること。

## ・おいしくて健康的な食：

現在の日本人の栄養上の問題点を加味し、栄養バランスに配慮した食であること。食べ続けられるおいしさであり、食べ続けることで健康につながること。

## ・共食を通じてコミュニケーションを生む食：

食を通じた喜び、楽しさやコミュニケーションなどの共食が精神面に及ぼす影響を加味し、食を通じて心身ともに健康であることを目指した食であること。

## ・日本らしさをいかした食：

日本の旬の素材を活かし、四季を感じられる食であること。

## ・味覚をはぐくむ食：

日本の調味料（みそ・しょうゆ・酢・みりん・酒など）の良さを活かし、味覚をはぐくむおいしさであること。」上記5項目全てを満たすもの。

特に重要なことは、持続可能性、おいしくて健康的、そして共食である。

美味しさと簡便性、そして楽しさが無ければ、持続可能性は生まれない、産学連携授業により女子大学生が提案する「にっぽん食」の概念である。



「にっぽん食」を考えたいメンバー



3月7日の発表会でメディアに紹介した「にっぽん食」

# JWU子育てサイエンス・ラボ／子育てサイエンス・カフェ

## 「JWU 子育てサイエンス・ラボ」活動報告

子育てプロジェクトチーム 麦谷綾子  
人間社会学部心理学科准教授

JWU子育てサイエンス・ラボでは、企画運営にあたる「コア・メンバー」を中心に、学内の子どもの育ちに関係する研究者が緩くつながりながら活動している。学外に向けては、ラボが発信する子育て関連情報を受け取る「子育て情報会員」、学内の研究活動への協力が可能な親子を対象とした「ラボ協力会員」の2種類のメンバーシップを設けており、ともに200名を超える登録者がいる。

ラボの情報発信の一環として、月1回程度のペースで学内メンバーや「子育て情報会員」に向けてメールマガジンを配信し、2月に1回程度のペースで「ニューズレター〈ゆりのき〉」を発刊、ウェブサイト上に掲載している。メールマガジンでは、子育てに関する短い読み物（子育てtopic）や、学内研究者が研究内容を広く一般に向けて講演する「子育てサイエンス・カフェ」を含む各種のイベント告知等を行っている。〈ゆりのき〉では、「子育てサイエンス・カフェ」の開催報告のような従来のコンテンツとともに、2022年度は子育てに関係する卒業・修士論文を紹介するコーナーを新たに設け、学生の研究活動も含めた情報発信に努めている。

2022年度のイベントとしては、複数の学科から講演者を招いて計6回の「子育てサイエンス・カフェ」を開催した（下表参照）。前年度は叶わなかった対面やハイブリッドでの開催が可能となり、いずれの回も学内および学外の様々な地域から数十名の参加があり、活発な意見交換が行われた。さらに、2022年度末からは学内メンバーの研究室を主体とした子どもの発達に関する調査研究が開始され、これまでに延べ40組以上の「ラボ協力会員」の親子が参加している。

来年度も継続的に活発な情報発信や研究交流を行うことで、本学の豊かな学際性を生かし、地域と連携しながら誰もが生活しやすい社会の創出に貢献できる場として、ラボの役割を拡充させる予定である。

開催日	2022年度「子育てサイエンス・カフェ」発表タイトル	発表者
5月11日	子供が外遊びしやすい住宅地を考える	葉袋 奈美子 (住居学科)
7月13日	心理実験から探る子どもの認知世界	伊村 知子 (心理学科)
9月10日	『ケア』はしんどい？～子どもをめぐる支援の今～	黒岩 亮子 (社会福祉学科)
11月15日	少子化、無子化は私たちの社会や経済をどのように変えるのか	伊ヶ崎 大理 (家政経済学科)
1月18日	共食について考えてみよう	松月 弘恵 (食物学科)
3月18日	4、5歳児の親子相互作用と家族コミュニケーション： 親の抑うつ、子どもの行動特性との関連	塩崎 尚美 (心理学科)



## 子育てサイエンス・カフェ アンケート

イベント名：＜第7回 子育てサイエンス・カフェ＞子供が外遊びしやすい住宅地を考える

日 時：2022年5月11日（水）12：40～13：10

場 所：12015教室（ハイブリッド開催）

参加人数：31名（対面18名、オンライン13名）

アンケート：11件（回収率：35.5%）

＜Q1＞今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	1
子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	1
子育てサイエンス・ラボ ニュースレター「ゆりのき」	0
本学SNS（twitter・Facebook）	2
JASMINE-Navi（学内者のみ）	3
学内掲示	3
その他	3

その他…日高館内の連携により・薬袋先生から・HP かわさきの生涯学習情報

＜Q2＞今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・川崎市在住です。各区に一つのプレイパークができたり、週に1度でも良いので学校開放して放課後に地域の子ども達が思いっきりボール遊びが出来る場が欲しいと思っていたため専門家の話を聞いてみたかったです。自身の子どもが小さい時は公園が良い場所でしたが、小学生になった途端に公園も遊べない場所となり、今まさしくどうしようと思っているところです。
- ・子どもと地域コミュニティについて興味がありました。
- ・住居学科を卒業後、住まいに関わる仕事に従事しており、“外遊びしやすい住宅地”という切り口に興味を持ち、参加しました。
- ・子どもの物的環境の構築。現在横浜市に居住するため、都市の再開発にも関心があった。
- ・住宅地における子育ての環境づくりに興味があり、表題を見てすぐに参加しようと思った。
- ・子育て環境を考えなおすきっかけとなると思ったので。
- ・児童学科に所属しており、子育て環境に興味があります。薬袋先生の住居論の授業で道路の活用についてとても関心を持ち、さらに知識を深めたいと思い参加いたしました。
- ・少子化が進み、地域でのコミュニケーションが減り、地域社会というコミュニティがなくなりつつある中、住宅地について考えたかったから。
- ・幼少期地方に住んでいたため外遊びの機会が多くあったのですが、東京に引っ越してから遊べる公園も外遊びをしている子供たちも少ないと感じ、薬袋先生の発表に興味があり参加させていただきました。
- ・子供の遊び場が無くなっている中で、どういう風に遊び場を作るのか気になったから
- ・まちづくりを通して子どもたちを社会全体で育てるような仕組みをと整えるというのが面白そうだと思い参加した。

※原文ママ

<Q3> 今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・ 全て全て興味深かったです。子育てサイエンスラボに参加させていただければと思います。
- ・ 地方の新興住宅地で子育て中ですが、道路で遊ばないように回覧板が回ってきました。その辺の折り合いが難しいと思いました。
- ・ 国内・海外事例も含め、多様な示唆があり興味深かったです。
- ・ 短い時間でしたが、新たな知識に刺激を受けました！ぜひ、子育てサイエンスラボにネットワーク・メンバーとして参加し、今後の学習を広げたいです。
- ・ 日本から世界まで、住宅地における子育ての事例を知ることができて勉強になった。また、他学科の学生の交流や、学外の方との意見交換の場にもなっていたのがとても良いと思った。
- ・ 改めて、普段住んでいる住宅環境について考え直すきっかけとなった。また、子どもへの注意喚起の仕方も考え直すきっかけとなった。
- ・ データや写真とともに市街地と農村地、日本と海外を比較し、理想の道の活用法を考えているうちに時間があっという間に過ぎました。「子どもを街で預かる」という言葉が印象に残っています。私も近所の方が「いってらっしゃい」「おかえり」と声をかけてくださって、温かい気持ちになります。地域に子どもの居場所ができればいいなと考えます。住居の面から子育てを考える楽しさを改めて感じ、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ デンマークやイギリスの道路の形を住民と一緒に自ら変えていく姿は面白く、魅力的だと思いました。一方で日本の道路はつまらないと思いました。法律などの壁もあるが、その前にそもそもの考え方や思考を変えていく必要があると感じました。前に葉袋先生が他の講座で話してらした、サザエさんやドラえもんのように子どもたちだけで外を歩けるような社会がきてほしいという言葉思い出しました。もっと沢山の人がこの考えが広がって欲しいなと思いました。
- ・ 大変興味深く面白いお話でした。聞くことができよかったです。田舎の方が外遊びをしない、今の町が子どもの声など音が響きやすい作りになっている、というのが特に印象に残っています。やはり新しく建てるだけでなく、今あるものを残していくことも大切なのだなあと感じました。卒論の研究テーマ決めの最中で悩んでいましたが、テーマを決めるきっかけにもなるような気がしています。ありがとうございました。
- ・ 地域住民たちが団結することで、国を動かした事例はすごいと思った。今の日本の道は歩行者天国など、歩くために特化したりはするが遊び場として使われたりする事例はあまり聞きません。外国では1日中車を止めて道を子供の遊び場にするのは子供の発達にも繋がるし、車の排気ガスが減って環境に優しくもあると思いました。今日は興味深い話をありがとうございました。
- ・ 今の日本の現状や海外での事例を踏まえて説明して下さって、私にとっては初めて知ることばかりで面白く感じた。また、お話を聞くうちに自分が小さい頃に遊んでいたことについて色々思い出した。今回お話しいただいたことはまちづくりや社会のコミュニティを考える上で大切な観点だと感じたので、今後どのような活動をするときにもこの視点を持っていたい。

※原文ママ

<Q4> 社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・ 思春期について伺いたいです。
- ・ とても面白い内容で、企画してくださり感謝しています。私は百年館の掲示板で告知されているのをたまたま通りかかって申し込んだのですが、もし告知を見ていなければ今回お話を伺えな

かったので、他の企画についてももっともっと宣伝していただけると嬉しいです。

- ・植林に関する企画(講義やボランティア参加)、河川のごみを無くすための活動に関する企画(同様)

※原文ママ

<Q5>よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	0
小学校のご関係者	1
保育園のご関係者	0
現在子育て中の方	3
本学学生	7
本学教職員	0
その他	0

イベント名：<第8回 子育てサイエンス・カフェ>心理実験から探る子どもの認知世界

日時：2022年7月13日(水) 12:40~13:10

場所：12001教室(ハイブリッド開催)

参加人数：32名(対面17名、オンライン15名)

アンケート：10件(回収率：31.3%)

<Q1>今回のイベントをどこで知りましたか？(複数回答可)

本学ホームページ	1
子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	2
子育てサイエンス・ラボ ニュースレター「ゆりのき」	0
本学SNS (twitter・Facebook)	1
JASMINE-Navi (学内者のみ)	3
学内掲示	2
その他	3

その他…社会連携室にて、(本学以外の) Twitter

<Q2>今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・AR表現が子どもたちにどのような反応をもたらすかを子どもの認知学を学んで知っていきいたいと思ったから。
- ・最近話題の内容だったため。
- ・最近、第一子が生まれ、子どもの認知発達に興味を持ったため。
- ・新しい時代に求められる研究の視点だろうなと思っていましたが、今後に向けて考えさせられる点がありました。
- ・ITの子育てへの影響
- ・常設のこどものまちを運営している『ま・あ・る』という施設のスタッフです。先日、VRを使ったこどものまちサミットに参加をし、VRがこどもにどのような影響を与えるのか知りたくて参加をしました。
- ・ARと子どもの関係については授業でもあまり触れられたことがなかったため、認知への影響等について知りたかった

- ・児童学科で学んでおり、子どもに関する問題を様々な視点から学ぶことに興味があったため。
- ・VRはスポーツで距離感を掴む手助けとなったりと、子どもの教育に利用可能です。子どもと大人では認知に違いがあるのか興味を持ちました。
- ・子どもとARという組み合わせが興味深かったから。ARについてあまり詳しくなかったから。

※原文ママ

<Q3> 今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・面白かった。これからますます広がっていくであろうARが、“子ども”に与える影響は注意深く検討しなければいけないと感じた（科学的な知見がわからない以上、しばらくの間子どもにARを与えるのは控えようと思う）
- ・視力への影響が気になります。近眼だけでなく、斜視になりやすいような気がしております。
- ・とても興味深い内容でした。専門的な視点でVRを知る機会がなかったので、参加できてよかったです。お時間があれば、色々ご質問等させていただきたかったです。
- ・比較発達心理学としての実験の条件の付け方や、大学生より子どもの方がARの存在の影響を受けやすいのではないかという結果が大変興味深く、勉強になりました。
- ・子どもと大人で見え方が違うかもしれないことは衝撃的でした。小学生もiPadを持ち歩くのが当たり前前の時代ですが、慎重になるべきところもあると思いました。
- ・VRの3Dモデルに対して、大学生と子どもでは認知に違いがあった。学習にVRを利用する際は、長期利用の影響に注意すべきだと知りました。楽しかったです。
- ・研究の内容がとても分かりやすく説明されており、理解しやすかった。ARでもたらされる視覚的な認知が、心理にどのように表れるのかという着眼点が興味深く、今後の研究成果も楽しみだと感じた。

※原文ママ

<Q4> 社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・学外に向けて、子育てをされる方が実際にどのように子育てをしたら良いか、研究成果を交えてお話しただけですと幸いです。
- ・子育てストレスの緩和、ワークライフバランスをとるために
- ・スマホやタブレットによる近眼や斜視の発生状況
- ・日本女子大学の卒業生で、先日開催されたこども環境学会に参加をし、その際に、こちらの発表を知りました。改めてよい学校だと感じます。ピア・サポートにも興味があるので、活動事例等を教えていただけると嬉しいです。また、日本で唯一の常設こどものまちを運営していますので、母校でも何かできることがあれば…と考えています。感想になってしまいすみません。これからも、活躍を楽しみにしています。本日はありがとうございました。
- ・個人的に子どもと自然環境（特に植物）の関係について興味があるので、企画していただけると幸いです。
- ・教授による博物館、美術館の見方

※原文ママ

<Q5>よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	0
小学校のご関係者	0
保育園のご関係者	0
現在子育て中の方	0
本学学生	5
本学教職員	1
その他	4

その他…他学教職員、静岡市こどもクリエイティブタウン『ま・あ・る』スタッフ、社会連携室より紹介

イベント名：<第9回 子育てサイエンス・カフェ>「ケア」はしんどい？  
～子どもをめぐる支援の今～

日 時：2022年9月10日（土）10：30～12：00

場 所：西生田キャンパス 生涯学習センター（ハイブリッド開催）

参加人数：29名（対面2名、オンライン27名）

アンケート：11件（回収率：37.9%）

<Q1>今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	0
子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	2
子育てサイエンス・ラボ ニュースレター「ゆりのき」	0
本学SNS（twitter・Facebook）	0
JASMINE-Navi（学内者のみ）	5
学内掲示	1
各自治体等からのお知らせ	0
その他	4

その他…生涯学習センターのメールマガジン、チラシ、社会連携教育センタープロジェクト会議

<Q2>今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・私自身、夏休み中に重度心身障害児の施設（学童保育）でボランティア活動をし、ちょうど社会福祉学科の黒岩先生がこちらの企画をするとのことで是非話を聞きたいと思い、参加させていただきました。
- ・ケアはしんどい？というタイトル。しんどいし、困っているけれど頼りがたい…その背景を理解し、解決するための動きや学説に興味がありました。
- ・黒岩先生の講演タイトルがとても興味深かったのと、さらにプロジェクトで事前に資料を拝見して、さらに一層拝聴したくなりました。
- ・ヤングケアラーに興味があり、何か一つでも学びを得たいと考え参加しました。
- ・自身に関わる子育て支援活動にて親御さんの悩みを聞く中で、個別の話だけではなく、育児のしんどさをもたらす社会構造に関心を持ちました。今後社会の仕組みがどう変わっていくといいのか、考えるヒントをいただきたいと思い参加しました。
- ・ケアという言葉が最近とても気になっていました。私は高齢者介護の仕事をしておりますので、

その意味でもケアについて学んでいきたいと思いましたが、子どもの支援にも関心があるため参加させていただきました。

- ・現在、幼稚園教諭を目指し、子どもについて学んでいます。近年は、幼稚園や保育園、認定こども園でも障がいを持つお子さんや子育てに関する保護者からの相談に対応する機会が増えているため、将来、子どもに関わる者としてよりよい支援の在り方を模索できればと思い、参加しました。
- ・子育て支援に関して興味があり参加致しました。
- ・育児や介護など、自分が日頃関わっていることがテーマだったため。
- ・子ども・若者教育の社会化に興味があり参加しました。
- ・「子育てケア」という言葉に興味があつて。

※原文ママ

### <Q3> 今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・とても有意義なお話ありがとうございました。
- ・葉袋先生のおっしゃること、共感しました。わたしも、産後ケアで関わったヨガの先生との出会いがなければ、育児を他者に頼ること委ねることは悪と考えていたと思います。一時預かり、ファミサポ、病児保育…親族縁者が近くにいなかった中で、ソーシャルサービスをフル活用し、ここまで来ることが出来ました。「遠くの親族より近くの他人」を実感しましたし、委ねた方々から親が見過ごしていたわが子のよさ・長所をたくさん伝えて頂き、子も親も幸せだったと思います。ご指摘の通り、「委ねる勇氣」「頼ること」「困ったときに、躊躇なく相談すること（安易な依存はいけません）」を幼少期から経験させないと、サービスは活用しづらいかもしれません。まさに「生きていくための力」と思います。教科学習のみならず、娘との日々の関わりの中でも、社会とのつながり・人とのつながりなどを親が範を示しながら経験させたいと改めて感じました。ありがとうございました。
- ・少額学習センターとのコラボ企画、一般の方に向けても意義深く、とてもよいですね！ ハイブリッド形式はご準備が大変ですが、オンラインだけでも参加者がこれだけ多彩にいらっしゃるようなら（北海道や遠方からのご出席）、今回の価値は大いにあると思います。黒岩先生のご講演内容に、幅広い関心を寄せてくださっている方々が多いことに注目しています。また今回のご講演の内容が、平田研究室で行っている災害後の復興支援研究と共通点が多々あり、大変参考になりました。たくさん勉強させていただきました。トレンドの伴走型支援、そして自己責任を越えて健全な依存としての支援を受けること、大いにうなづきながら拝聴しました。とても力のこもったスライドと気持ちのこもったご講演に深く感謝し、大きな収穫があったことを感謝申し上げます。今後とも研究面でぜひつながりたいと思いました。今後ともよろしく申し上げます。
- ・ケアについて、ケアとは何かから丁寧に説明して下さり大変興味深かったです。子育て支援に関しても、ただ子育て支援の現状を紹介するのではなく、地域間で連携し助け合う社会についての構想を伺うことができ、刺激をうけました。専門職についてもより高度なレベルに高めていくことで、虐待等の防止に繋げるとのことで、「高度なレベル」とはどのような人を指すのか、具体的に専門職はどのような対応をして当事者と相対していくのか、また機会がありましたらお話を伺いたいと思いました。
- ・短い時間の中で、現在の育児支援に至る背景や現時点での課題をわかりやすく解説いただきました。伴走型支援やネウボラなど、印象的なキーワードも教えていただき、視野が広がったように思います。ありがとうございました。

- ・ケア、また支援について、さまざまな視点をあたえていただき、とても興味深かったです。これをきっかけに地域の社会資源について学んだり、自分ができるところを探りつつ、地域共生に少しでも参加していけたらいいなと思っています。先生のお話、作っていただいた資料に、学ぶことの嬉しさ、楽しさを実感しました。これからもこのような機会を大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・zoomでの開催もして下さったため、参加することができ、非常に助かりました。子育てが「しんどい」ことの要因の一つに、養育者のこだわりや強い思いがあるという視点は、初めてでしたので、今回また視野を広めることができたと感じます。支援する者としては、その気持ちに寄り添いつつ、もしそれが「しんどさ」につながっていると考えられる場合は、徐々に解きほぐすことも役割であると考えました。
- ・私は学生なので子育てという経験はありませんが、年の離れている弟のお世話をしたり、塾講師のアルバイト、学校ボランティア等に参加し、子どもと関わっています。最後の質問タイムで、支援の地域差が課題であるという話が出て、差は生まれてしまうものだとふんざりをつけていましたが、黒岩先生や薬袋先生のお話を聞き、それぞれの地域ごとの特徴や住民の声を聞き、地域に合った支援のあり方を遂行していくことが大事だと思いました。私自身、ファミサポや学童、いとこ・叔母や叔母等の親戚など家族以外の人々のサポートをたくさん受けてきました。一人では生きていけないことも感じていますし、友達や親戚とずっとつながりを持ち、色々な場面で依存しています。学校の教師を目指している身として、教師になるまでの間は地域住民として、子育てに限らず、地域の方々の「助けて」に手を差し伸べたり支援をしたりしていければと考えます。今日は貴重なお時間をありがとうございます。
- ・ケアについての歴史や制度についてのご説明もあり、大変勉強になりました。育児やかいごにおいては一人で抱えこんでしまうことが多いですが、頼ったり頼られたり、周りの方々と助け合っていたら、みんなが楽に生きやすい社会になるのではないかと考えました。貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。
- ・先生のお話をオンラインでゆっくりじっくり聴くことができ、満足しました。

※原文ママ

**<Q4>社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。**

- ・本学の誇る、一般にも関心をもってもらいたいような、研究テーマを扱うと、外部の参加者が増えてよいかと思いました。一方で、学生がこれだけ参加してくれるようなテーマも必要で、学内向け、学外向け、テーマを明確にして、その場合の広報もそれに合わせて多彩にしていくとよいですね。メルマガの情報が貴重だと思いました。
- ・(適切なテーマかどうかわかりませんが)虐待を引き起こす構造をどう変えていけるのかといったテーマを希望します。個々の家庭や親子の問題に留めるのではなく、社会全体の問題として考えられるといいなと思います。
- ・私は社会福祉、精神保健等に関心がありますので、その関係の学びの機会を与えていただけたらありがたいです。
- ・発達の特性上、「グレーゾーン」と言われる子どもたちに関する講演。
- ・受講機会の拡大のためにも、今後もオンライン講演会の企画をよろしくお願いいたします。内容としては、コミュニティ・スクールなど、〈地域教育システム〉の発展可能性を展望できるようなテーマに関して、識者の見解を伺いたいです。

※原文ママ

<Q5>よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	0
小学校のご関係者	0
保育園のご関係者	0
現在子育て中の方	0
本学学生	5
本学教職員	2
その他	4

その他…豊明小保護者、通信教育課程卒業生（子育て中）、社会福祉学科卒業生（認知高齢者グループホーム勤務）、子ども・若者支援関係のNPO活動経験者

イベント名：<第10回 子育てサイエンス・カフェ>

少子化、無子化は私たちの社会や経済をどのように変えるのか。

日時：2022年11月15日（火）12：40～13：10

場所：マルチメディア室1（ハイブリッド開催）

参加人数：25名（対面8名、オンライン17名）

アンケート：12件（回収率：48%）

<Q1>今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	2
子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	3
子育てサイエンス・ラボ ニュースレター「ゆりのき」	0
本学SNS（twitter・Facebook）	1
JASMINE-Navi（学内者のみ）	3
学内掲示	2
各自治体等からのお知らせ	1
その他	3

その他…チラシ、所属する大学のお知らせ（他大）

<Q2>今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・少子化に興味がある
- ・社会福祉での学びと関連付けられると思い、また家政学部の教授のお話が聞ける機会だと思い、参加しました。
- ・少子化について知りたかった。
- ・今後、子育てをすることになる自分が、どんな社会の中で生きていくのか、考えたかった。
- ・無子化という言葉が聞きなれず、聞いてみたいなあと思いました。
- ・少子化の急速化は、本園にも影響が出ています。この問題にどのように取り組んでいけばよいか、考えてみたいと思いました。
- ・少子高齢化の末路について。これから自分たちにできることについて
- ・卒業論文で子育てについて調べていて、興味があったので参加しました
- ・無償化の制度は、子育て最中の保護者にとっては助けられる制度だと思うが、周りにとってどうなのか？、この制度を続けていくことで保護者以外にもメリットがあるのか？など、興味がわい



たから。

- ・少子化に伴う人口減少による支える世代の経済的負担が気になっていたから
- ・少子化について興味があります。
- ・普段は子どもについて学んでいますが、経済的な視点から考えることがなかったので、他学科の内容も関連した話を聞きたいと思い、参加をしました。

※原文ママ

<Q3> 今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・良かった
- ・会場だけではなくZOOMでも聴講できたので、赤ちゃんが泣いてる中でも受講することができました。日本の少子化の原因の一つに根本的に子どもが嫌いな人が増えていることも一つの要因だと思います。子育て世帯や、教育従事者や子どもが好きな人が子どものことを勉強したり問題を考えたりしています。でも、子どもが嫌いな人や興味のない人との意見の共有や子どもが好きな人を増やしていくことは、少子化の改善にもつながるのではと思います。職場が改善されも、子育て中の社員をよく思わない人はたくさんいますし、その声をもっと聞いて改善していかないといけないのではと思います。
- ・附属幼稚園では、年々共働き家庭が増加しています。本園の子育て支援の在り方について、真剣に検討する時期に差し掛かってきていると個人的には思っております。
- ・今の状況が続くと、100年後は実質的に日本崩壊になると思った。
- ・子育ての抱えている問題がとても深いと感じました。結婚と子供(出産)が大きく関わっていることも知ることができ、どうしていかなければならないのかを考えていきたいと思いました。
- ・婚姻の減少による少子化は今後も変わらないと思う。3人産んだ身としては、まず生む環境（主にお金の面）を整えてほしいと思いました。検診が1回につき最低でも5,000円かかるのはお財布に厳しかったです。不妊治療だけでなく、検診への保険適用は難しいのでしょうか？また出産に関しても分娩費用の安い産婦人科はすぐに予約をしないといけないし、実際断られたこともあります。病院探しも難儀しました。核家族化が進み、都市化への人口集中により、産んだ後の両親からの援助等も難しかったなあと思います。今後は、保健婦さんによる訪問看護を増やすなどの補助が1回だけでなくあれば良いと思いました。先生がおっしゃっていたように人口減少してもやっていける国があるとのことなので、日本もそれに倣い経済体制を整えてくれると良いと思いました。
- ・海外との比較なども面白かったです
- ・子育て政策や合計特殊出生率などを世界と比較するデータは目にしたことがあるけれど、海外では婚外子の割合が高いという事実は初めて知った。日本ではその割合が低く、未婚率が少子化と関連しているという視点が興味深かった。また、人口が減ること自体が問題なのではなく、将来支えられる側が急増し、支える立場の負担が大きくなってしまうと考えると、とても他人事ではなく恐ろしいことだと思った。

※原文ママ

<Q4> 社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・子育て
- ・子どものあそび場やまちづくりについて興味があります。また、としまキッズパークなどインク

ルーシブをテーマにした公園は本当にインクルーシブなのか問い直すテーマも面白いと思いました。

- ・ 附属幼稚園と社会連携教育センターが協力してできる企画はないでしょうか？保護者の方々にこのような施設があることをお知らせできる機会があれば、大変ありがたいです。
- ・ 核家族化に伴う日本経済の推移、ディンクスと日本経済など
- ・ 子どもに関する問題に対し、様々な分野から捉えていく講義が聞きたいです。

※原文ママ

<Q5>よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	2
小学校のご関係者	0
保育園のご関係者	0
現在子育て中の方	1
本学学生	5
本学教職員	2
その他	1

その他…他大学生

イベント名：<第11回 子育てサイエンス・カフェ>共食について考えてみよう

日 時：2023年1月18日（水）12：40～13：10

場 所：12015教室（ハイブリッド開催）

参加人数：26名（対面2名、オンライン24名）

アンケート：13件（回収率：50%）

<Q1>今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	2
子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	3
子育てサイエンス・ラボ ニュースレター「ゆりのき」	2
本学SNS（twitter・Facebook）	0
JASMINE-Navi（学内者のみ）	3
学内掲示	1
各自治体等からのお知らせ	2
その他	4

その他…所属する大学のボランティア掲示板、学内会議、社会連携教育センターより紹介

<Q2>今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・ 共食というキーワードに関心が高かったため
- ・ 共食という言葉に惹かれたのが一番の理由です。小学校教諭として、二児の母として、コロナウイルスにより子どもたちが制限のある食事をしなければいけない現実を、いまだにとても悲しく感じています。改めて共食のメリットを教えていただき、我々ができることを模索していくことが大切だと感じました。
- ・ 食育に興味があったため参加しました。

- ・共食の大切さをどう伝えていくのか。共食に限らないですが、行動変容につながるアプローチの仕方を知りたくて参加しました。
- ・共食というテーマに興味がありました。
- ・娘が食物学科でお世話になっており、興味を持ち参加させていただきました。
- ・共食に興味があった。
- ・黙食の時代で、共食が難しくなっており、どうなっていくか気になりまして、
- ・コロナ禍で人と食べる機会が減り、その子どもへの影響について興味があったため。
- ・共食が子供にどのような影響があるのか知りたかった。
- ・共食と個食との関係を知りたく参加しました。
- ・食物学科の者として、共食について考えてみたいと思ったため。
- ・松月先生のご講演そのものに興味がありました。

※原文ママ

### <Q3> 今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・わかりやすく教えてくださったので理解が深まりました。ありがとうございます。共食のグッドプラクティスとか工夫を第2回としてつづいて伺いたいと思いました。ぜひ次回がありましたらお願いします。
- ・このような講習会が開かれていることを初めて知りました。30分という比較的参加しやすい時間設定なこと、そしてzoomにより北海道に住んでいながら参加できるのもありがたく、ぜひまた参加させていただきたいと思います。
- ・私自身、1人で食事をするときは、あまり栄養の整っていない食事をしていたので、それが研究結果でも出ているという事実には驚きました。
- ・まさに食物学科からの話でしたが、メッセージでも出しましたが、学校や職場で黙食を強いた大人が、どうやって黙食から共食を勧めるのか、とても大切なテーマな気がしています。
- ・コロナ禍の食に関連する影響、そして今後取り組まなくてはならない課題について、さまざまなことがあることを改めて考えさせられました。松月先生、お忙しい中ご講演をありがとうございました。
- ・とても興味深く拝聴させていただきました。時代がコロナによって急激に変化して、様々な価値観の中、その中でベターな方法を柔軟に探っていくことが重要だと感じました。仕事柄、小学生と関わる事が多いのですが、正直この先、子どもたちの発達において心配に思う事もあります。共食しかり、大人が子どもたちのためにもっと出来るのではと考えさせられました。とてもいい機会を頂戴し、ありがとうございました。
- ・私は、実家暮らしですが、家族との時間が合わず、共食をすることが少ないです。今回のことを話して、少しでも共食の機会を増やせたらいいなと思います。また、一人で食べる方が気が楽でいい、という気持ちも私の中にはあり、そことどう折り合いをつけるか考えています。
- ・高齢者ほど、孤食にならざるを得ない時代だと思い、経済的にも難しい。
- ・小学生にも孤食をしている子がいる現状、共食をすることが栄養バランスや生活リズムにも影響していることが印象的でした。コロナ禍で子どもたちが多くの制約を受けていることに、課題を感じました。
- ・共食について漠然と良いことがあるとは思っていましたが、改めて考える機会となり、その確認ができてよかった。よい内容でもったいないので、もう少し参加者が増えるとよいと思う。
- ・とても興味深く拝聴しました。講演後予定があり、退出してしまいましたが皆さまのご意見を伺

いたかったです。児童学科縦の会でも取り上げてみたい講演でした。孫たちの給食などの話を聞いていたので、共食の重要性がいかに必要かを痛感しました。子ども食堂やお年寄りの集まりなどでのお食事会も早く以前のように出来る様になると良いですね！今後もよろしく願います。

- ・コロナ感染防止と共食の両立は難しいと感じた。
- ・「共食」の大切さについて、エビデンスをお示しいただきながらお話しいただき、参考にさせていただきました。

※原文ママ

<Q4>社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・学生と対話できる形などいかがでしょうか。
- ・食事と五感の関係

※原文ママ

<Q5>よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	0
小学校のご関係者	0
保育園のご関係者	0
現在子育て中の方	0
本学学生	3
本学教職員	4
その他	5

その他…卒業生（児童学科縦の会）、他大学生、文京区社会福祉協議会フミコム、小学校教員・育休中、孫の育成に関心があるので。

イベント名：＜第12回 子育てサイエンス・カフェ＞

4、5歳児の親子相互作用と家族コミュニケーション：親の抑うつ、子どもの行動特性との関連

日 時：2023年3月18日（土）10：30～12：00

場 所：オンライン開催

参加人数：44名

アンケート：13件（回収率：30%）

＜Q1＞今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	3
子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	2
子育てサイエンス・ラボ ニュースレター「ゆりのき」	0
本学SNS（twitter・Facebook）	0
JASMINE-Navi（学内者のみ）	5
学内掲示	1
各自治体等からのお知らせ（Web等）	0
各自治体等からのお知らせ（チラシ）	0
その他	3

その他…紹介、幼稚園からの案内

＜Q2＞今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・娘が4歳です。2歳くらいのイヤイヤ期はなかったものの急に対応が大変になってきました。私は、確かに妊娠期産後含め、今思えばうつ状態だったのかなと思うところもあり、先生もおっしゃっていらしたように、4歳以降はなかなか対策本もなくなり、藁にもすがる想いで申込みました。昨年10月から通信生として学んでいます。この時代もあり、我が子は初めて知った世界がマスクの世界です。親以外の大人の顔はまだマスクしか知りません。情緒面での影響がないことを祈るばかりです。本当に貴重な機会をいただき、どうもありがとうございました。
- ・子どもの育児に悩んでおり参加しました。
- ・親の抑うつと子どものコミュニケーションの発達について
- ・4.5歳児の親子を対象としている点と、親の抑うつと子どもの行動特性を関連付けたテーマが珍しく、研究内容について知りたいと思ったからです。
- ・我が家は第1子、第2子のタイプがだいぶ異なりますが、私自身の子育てに対する緊張感も第1子と2子では違ったため、そういった影響などについて興味がありました。
- ・通信制大学の心理学科を卒業しました。子どもの発達に対する親子を含めた家族の影響について関心があり、今回参加させていただきました。
- ・教育や保育の分野に興味があり参加しました。
- ・自分が大学で心理学を学ぶ中で家族関係についての研究に興味を持ち、参加しました。また、塩崎先生の研究内容にも関心があったため参加しました。
- ・親子関係、家族間のコミュニケーションに関して興味があったため。また、心理学の授業を履修したことがあり、心理学の中でも特に家族療法に関して興味があったため。
- ・塩崎先生のご講演を聞いたかったことと、調査での客観的な結果に興味があったので。ありがとうございました。

- ・親の抑うつ状態
- ・4、5歳の行動特性を知り、将来子育てをするときや親戚の子供と関わる時などに活かしたかった。
- ・自分にも4歳と1歳の子供がいるので、知りたいと思いました。

※原文ママ

<Q3> 今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・とてもよかったです。今後もアンテナを伸ばし、参加させていただきたいと思います。
- ・貴重な研究結果をわかりやすく教えていただきありがとうございます。
- ・非常に興味深いお話でした。ありがとうございました。
- ・本日はありがとうございました。今回初めて子育てサイエンスカフェに参加しましたが、大学の講義とは違い、一つの研究についてじっくりお話を聴くことができたため良い経験になりました。お話を聴いて、父母でSDQや育児感情に違った傾向が見られたり、家族コミュニケーションをする上では親子の距離が近いことによって子どもの我儘を許容したり、巻き込みといった問題も隠されていること等を学び、とても興味深いと感じました。機会がありましたらまた参加したいと思います。
- ・父母間の行動特性の違いはとても納得するものがありました。4、5歳時期は過ぎた子供たちですが、子供とのかかわりにおいては、変わらず「否定的な表現」には気を付けて行こうと思いました。とはいえ、親の行動特性が影響を及ぼさない部分もあるという点では、子供の成長のすべてを自分が負っているわけではないと言っていたように、ほっと肩の荷が下りた気がしました。自身の心身が健康であることが何よりだと、前向きになれました。ご講演、ありがとうございました。
- ・現在最前線で行われている研究について、その背景や意義を含め、大変分かりやすくご説明いただき興味深かったです。事前に資料を配布していただけたのも助かりました。
- ・少々難しい部分もありましたが、研究や分析のしかた、今後の展望なども含めて勉強になることが多かったです。特に、片方の親と子どもでは侵入・否定を示していても、家族になると応答的になるということが興味深く感じました。ひとり親家庭では、虐待のリスクが高くなることには、これらも要因になりそうだと考えました。
- ・自分が実家暮らしで子どもがいないということもあり、今回のお話を子ども目線から聞いていました。自分の両親と照らし合わせながらお話を聞く中で母親からの教育には否定的な表現が、父親からの教育には侵入的関りが含まれることが多いということが印象的で、自分の両親に当てはまると思いました。また、質疑応答の中ででていた、親の子への接し方は子の特性が原因か、はたまた親自身の性格が原因かというお話も興味深かったです。まだ子どもがいない自分にとっては親自身の性格によるものが大きいと考えてしまいがちですが、これから心理学を深く学んでいく中で自分の考えに変化がおきるのか、着目したいと思いました。イベントを開催いただきありがとうございました。
- ・先生の研究を知ることができて、良い学びになった。このようなイベントは、子育てで忙しくしている方も、少しの時間でも学生時代を思い出し、学ぶ楽しさを知る機会にもなると思う。それが、女子大の通信教育やリカレント教育につながっていくと学園のアピールになると思う。
- ・貴重なお話をありがとうございました。ところどころ音声途切れてしまい聞き取れなかったのかもしれませんが、親の抑うつ状態の程度が知りたかったです。精神疾患とまでいかない状態なののでしょうか。もしくは皆さん手帳をお持ちで何らかの支援を必要とされているのでしょうか。

いうところが興味がありました また、母親と娘、父親と息子のように、親子の性別の違いによる相互作用といますか違いは見られるのでしょうか と言いますのは夫は娘と息子への対応が違う気がして、娘に甘い(笑)ありがとうございました

※原文ママ

<Q4>社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・ 幼児期、思春期をマスクの世界で過ごした子どもたちの今後の影響があるかどうかは研究していただきたいなと思っております。(例、幼児期に保育士などからマスクで唇読みを習得できなかったことに対する言語の習得への影響や、歌の歌詞を覚えることへの影響。思春期にマスクで行事中止の多かった学生が今後、教員になった場合に影響はないかどうか。)
- ・ 未就学児を含む子どもと、スマホ・タブレット端末との上手な付き合い方について。
- ・ 保育者が保護者と良好な関係をつくるためにはどのような点に気を付けるべきかなど。
- ・ 今後の幼児教育の展望 対話的深い学びとは？主体的で自発的な学びを誘発するには？楽しい老後を過ごすには 今の世界の動きとは？

※原文ママ

<Q5>よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

近隣にお住まいの方	2
小学校のご関係者	0
保育園のご関係者	0
現在子育て中の方	2
本学学生	6
本学教職員	2
その他	1

その他…卒業生

# SDGs特設サイト

## SDGs特設サイトについて

SDGsプロジェクトチーム

2021年度より、社会連携教育センターの事業計画に基づき、SDGs特設サイトを立ち上げ、本学におけるSDGsの取り組みに関する情報を発信してきた。2022年度は新たに5コンテンツを公開し、引き続き、撮影・取材を行っている。

日本女子大学×SDGs特設サイト：<https://www3.jwu.ac.jp/sdgs/index.html>



### 【2022年度スケジュール】

- 2022年5月～ 学内募集
- 2022年6月 1コンテンツを公開
- 2022年8月～ 新規コンテンツ取材・撮影開始
- 2023年1月 4コンテンツを公開

第1弾公開
昔からの建物を守る。昔からのサステナブルな精神も守る。
家政学部住居学科 教授 江尻憲泰
第2弾公開
地球環境を守る方法は、守らないと損をする世界にすること。
家政学部家政経済学科 教授 伊ヶ崎大理
我が子を虐待した親は、虐待したくてしていると思いますか？
家政学部児童学科 准教授 和田上貴昭
西生田キャンパスの里山から、地球環境問題の解決に挑む！
理学部化学生命科学科 教授 宮崎あかね
日本の防災を考えることが、エチオピアの貧困を無くす！？
家政学部住居学科 教授 平田京子



## 2022年度 日本女子大学 社会連携教育センター活動報告書

---

発行 2023年9月1日  
日本女子大学 社会連携教育センター  
(事務局：学務部社会連携室)  
〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1  
TEL：03-5981-3748

[jsc@atlas.jwu.ac.jp](mailto:jsc@atlas.jwu.ac.jp)

